

平成28年第4回定例会

◆発言者一覧◆

●議長：岡部恒司、副議長：安孫子雅浩

日程	発言順	氏名	会派
第2日目 (2016.12.09)	1	やしろ美香	自由民主党
	2	沼沢しんや	市民フォーラム仙台
第3日目 (2016.12.12)	1	佐藤和子	公明党仙台市議団
	2	庄司あかり	日本共産党仙台市議団
	3	ひぐちのりこ	社民党仙台市議団
第4日目 (2016.12.13)	1	高橋卓誠	自由民主党
	2	平井みどり	市民フォーラム仙台
	3	佐々木真由美	公明党仙台市議団
	4	ふるくぼ和子	日本共産党仙台市議団
	5	相沢和紀	社民党仙台市議団
	6	柳橋邦彦	輝く仙台
	7	佐々木心	自由民主党
第5日目 (2016.12.14)	1	渡辺敬信	市民フォーラム仙台
	2	鎌田城行	公明党仙台市議団
	3	花木則彰	日本共産党仙台市議団
	4	石川建治	社民党仙台市議団
	5	わたなべ拓	自由民主党
	6	佐藤わか子	市民フォーラム仙台
	7	鈴木広康	公明党仙台市議団
第6日目 (2016.12.15)	1	菅原正和	自由民主党
	2	岡本あき子	市民フォーラム仙台
	3	松本由男	自由民主党
	4	橋本啓一	自由民主党
	5	田村稔	アメニティー仙台
	6	西澤啓文	自由民主党
	7	渡辺博	自由民主党

第2日目 (2016. 12. 09)

1 やしろ美香

NO.	質問	①事前・ 現場調査 (0~4点)	②他都市 との比較 (0~2点)	③改善案 (0~3点)	合計
1	<p>十一月二十二日の福島県沖を震源とするマグニチュード七・四の地震の対応について</p> <p>①当局の対応や市民の避難行動はどうだったのか、これまでの対策が功を奏したのか ②仙台市の防災情報の周知と拡散は十分だったのか、徒歩による避難計画は実効性があるのか、市長の見解 ③今回の地震、津波を踏まえて、どのような課題を認識され、今後の地震、津波対策をより万全なものとしていくために、どのように対応されていくつもりなのか ④災害対応の権限についての県と市の役割分担に関する現在の国の動き</p>	1	0	0	1
2	<p>病児・病後児保育事業費の追加について</p> <p>①今回新たに市内中心部に設置するに至った経緯 ②女性の社会進出や社会での活躍を促していくためにも、妊娠、出産、子育てに対する職場や企業における理解と、社員に対する支援も不可欠であると考えますが、本市における家庭と仕事の両立支援への所見と、今後の取り組み</p>	1	0	0	1
3	<p>旭ヶ丘駅前公共施設建設候補地検討調査費について</p> <p>①平成二十八年度に実施した現整備用地の調査結果の概要と、今回の補正議案である候補地検討調査の概要 ②今後予定しているスケジュールと、どのように住民の意見を聞きながら進めていくことを想定しているのか ③この施設の建設にあわせて地域から強い要望のある旭ヶ丘駅周辺の通勤時間帯の交通渋滞の解消について、どのように検討していくか</p>	1	0	0	1
4	<p>生活困窮者自立支援事業及び被保護者就労支援事業に係る債務負担行為の設定に関連して</p> <p>①所期の目的に照らし、どのような事業展開をしてきたのかを、事業の総括もあわせて伺う ②生活困窮者の支援に当たっては、複雑化する社会構造の変化の中、こうした連携のもとで対象者を早期に把握し、地域のネットワークによる包括的な支援を行うことが一層求められている。所見 ③これまでの事業展開を通じ、より効果的な取り組みを行うためにはどのような課題があるのか、またどのように取り組んでいくのか</p>	0	0	0	0
5	<p>来年四月から開始予定の介護予防・日常生活支援総合事業、いわゆる新しい総合事業について</p> <p>①四月からの新しい総合事業の円滑な開始に向け、今後どのように制度の周知を図っていく予定であるのか ②本市が実施する新しい総合事業の実施メニューについて (地域の町内会やNPOなどの組織や事業者などの多様な主体が、高齢者が抱えるさまざまなニーズに適切に応えていくという仕組みづくりも重要) (住民主体のサービスについての認識と、今後そうしたサービスを充実させるためにどのように取り組んでいくのか) ③介護保険制度の今後の運営等について (二〇二五年に向け、またその先を見据え、介護保険制度の安定的な運営についてどのように取り組んでいくつもりか)</p>	1	0	0	1

6	<p>仙台市工場立地法に基づく準則を定める条例の一部を改正する条例に関連して</p> <p>①蒲生北部地区と茂庭地区の区画整理事業の進捗状況 ②蒲生北部地区の今後のスケジュール ③蒲生北部地区の現時点での企業誘致の感触や、今後の企業誘致の進め方、スケジュール ④蒲生北部地区の地域の特性などは考慮されているのか、今後どのような方針で臨んでいくつもりなのか</p>	1	0	1	2
7	<p>職員の給与に関する条例及び仙台市立高等学校等の教育職員の給与等に関する特別措置に関する条例の一部を改正する条例に関連して</p> <p>①この権限移譲によって、宮城県から本市に移譲される権限にはどのようなものがあるのか ②どのような考えに基づき条例改正を行うこととしたのか、基本方針とその方針の具体策 ③新年度予算における県費負担教職員給与負担等に係る経費は、どの程度の規模に上る見通しなのか ④県からの財源移譲分のほかにどのような財源を見込んでいるのか、その内容と見通し ⑤今年度、加配教員百人を活用したいじめ対策専任教諭の取り組みがどのように進んでいるのか ⑥教育の現場における多岐にわたる課題に向き合うために、安定した加配定数の拡充が重要と考えるが、今後の方針</p>	0	0	0	0
8	<p>仙台市個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例に関連して、セキュリティ対策の強化について</p> <p>①セキュリティの確保には一層の慎重さが求められる。本市の取り組み ②学校での情報セキュリティ管理について (教職員によるデータの持ち出しやUSBメモリの置き忘れ、盗難、紛失などの不祥事が後を絶たない。現状と今後のセキュリティ対策について)</p>	0	0	0	0
9	<p>地下鉄東西線について</p> <p>①乗降客に関する計画値と直近の実績値の比較を踏まえた所見 ②利用促進の取り組みとして、沿線の住宅開発や集客施設、事業所等の立地誘導など、関係部局が連携し、市全体で東西線沿線のまちづくりを進めるために全庁的な取り組みが必要、今後どのように取り組んでいくのか ③開業後、一年間の収支状況を踏まえた高速鉄道建設基金の見通しと、また今後基金をどうするお考えなのか ④東西線開業後一年を迎えた中での交通施策について (東西線開業、さらには路線バスの再編が実施されてから一年を迎えた中での交通政策の観点から当局の現状認識) (以前当局においては東西線開業後一年程度の期間をかけて状況を把握し、必要があれば見直しを実施する旨の答弁を行っているが、現在どのように考えているのか) (対応すべき課題と課題を踏まえ、市は長期的な視点でどのような方向性で交通政策を推進していく考えなのか)</p>	0	0	0	0
10	<p>音楽ホールについて</p> <p>①市当局は、現在の音楽ホール建設基金や機運醸成の活動の成果をどのように把握しているのか、その成果をどのように受けとめているのか ②現在、基礎的な調査をどのように進めていて、今後どのように判断していくつもりなのか ③具体的な方向性を打ち出し、さまざまな視点を持ってしっかりと取り組んでいくことが望まれる。当局の所見</p>	0	0	0	0

11	<p>市役所本庁舎について</p> <p>①市長は、第三回定例会で、市庁舎の建てかえについて年度内に考えをまとめて示したいと答弁しているが、改めて市長の考え ②その概要と、本庁舎を建てかえる場合の市の方針 ③しっかりとした財源の計画的な確保策が必要、所見</p>	0	0	0	0
12	<p>放射性物質汚染廃棄物の試験焼却について</p> <p>①市民に対する情報の開示は欠かせない。丁寧な説明を求めたい。市民説明会の開催を含め、どのような対応を考えているのか ②宮城県との調整についての現在の状況 ③市長はどのような姿勢で次回の市町村長会議に臨まれるのか</p>	0	0	0	0
13	<p>仙山連携について</p> <p>①市長が最もこの連携に期待するものは、どのようなことなのか ②東北のリーダーとしてこの連携を成功に導くことにかける決意 ③瀬戸内や北海道の取り組みなども踏まえつつ、現在、検討している東北連携を進めるための具体的な取り組みの方向性</p>	1	1	1	3
14	<p>電力の自由化とガスの小売自由化について</p> <p>①このようなエネルギーの自由化がどのような変化をもたらすと考え、どのように対応し、どうお客様に知らせていこうとしているのか ②ガスの小売自由化について今後どのように対応していくのか</p>	0	0	0	0
15	<p>教育に関する重大な問題に関連して</p> <p>①昨年十月ごろから市内青葉区の市立中学二年生の男子生徒が、同校の運動部顧問ら五十代男子教諭に、潰してやるといった暴言や無視などを受け、精神的に落ち込み、心身の不調を訴えていたことについての事実関係と今後どのように対応していくのか ②仙台市泉区の市立中学校に通っていた二年生の男子生徒が、いじめを苦にして自死した問題をどのように受けとめているのか、また、御自身の責任についてどのような認識か</p>	1	0	0	1
		7	1	2	10

【コメント】

1 ①②④, 2 ①, 3 ①②, 4 ①, 6 ①②③, 7 ①③④, 8 ①②, 9 ①③, 1 1 ②, 1 2 ②⇒
事前に調査し、どこに問題があるかを把握して質問する必要がある

1 ③, 2 ②, 4 ②③, 5 ②③, 6 ④, 9 ②③④, 1 0 ③, 1 3 ③, 1 4 ⇒
課題は調査を通じ質問者が提示する必要がある。当局の所見や方針の確認で終わる質問に意味があるかどうか検証する必要がある

第2日目 (2016. 12. 09)

2 沼沢しんや

NO.	質問	①事前・ 現場調査 (0~4点)	②他都市 との比較 (0~2点)	③改善案 (0~3点)	合計
1	<p>去る十一月二十二日早朝、福島県沖を震源とするマグニチュード七・四の地震が発生したことについて</p> <p>①津波警報発表時には避難勧告を発令すると定めた経緯と、このたびの発令に対する評価について</p> <p>②現在、本市沿岸部には、津波避難タワー三カ所、津波避難ビル五カ所が、年度内の完成予定で建設中。地域の避難計画にも直接かかわる施設でもあり、おくれは許されない。早期の着実な整備を求める。今後の見通し</p> <p>③本市から発信された杜の都防災メールの不具合の再発防止とともに、災害時の情報発信には細心の注意と正確性を求める</p> <p>④かさ上げ道路におくれが生じないよう強く求める。これまでに契約した工事は予定どおり進捗しているのか。土砂運搬などに伴う安全対策について万全を期すとともに、地元の方々に対して説明する機会や御意見を伺う場を設けるなど、丁寧に対応すべき</p>	1	0	1	2
2	<p>マイナンバー制度について</p> <p>①本市における通知カードの未達件数は何件存在し、マイナンバーカードの申請率はどれほどなのか、その未達の状況に対し、今後どのような対応をお考えなのか</p> <p>②マイナンバーカードの普及に向け、今後より一層の取り組みが必要。所見</p>	1	0	0	1
3	<p>落合児童館及び若林区中央児童館の名称及び位置並びに太白区中央児童館の名称の変更等について</p> <p>①区中央児童館は、当初求められていた役割を達成したからなくなるのか。それとも、達成できなかったからなくなることになるのか。当局の認識</p> <p>②区中央児童館がなくなることによって、今後児童館ネットワークはどのように形を変えていくのか。所見</p> <p>③現在、若林区中央児童館は、改築工事の真っ最中。その工事の途中で名称を変更するのは、試合が始まってからルールを変えるようなもの。余りにも場当たりの。改築とあわせて議論をし、地域の方々にも説明を行い、御理解をいただいた上で改築に臨むべきだったのではないかと</p> <p>④来年度以降さらに利用児童数がふえることが予想される。今後はサテライト設置にも力を入れていくべき。所見</p>	1	0	2	3
4	<p>病児・病後児保育事業費の追加に関連して</p> <p>①国は病児保育事業実施要綱を本年四月に一部改正し、病児保育施設が医療機関内に設置されている場合において、緊急の場合には近接病院等から看護師が駆けつけられるなどの対応が可能であることなどを条件に、看護師の常駐を要件としないこととしたが、本市の要綱は改正されていない。仙台市病児・病後児保育事業実施要綱の改正の是非には、どのような議論があったのか示されたい。そうすればすぐにも市立病院における看護師の常時配置の課題はクリアできることになるかと思えるがいかがか</p> <p>②市立病院の院内保育園においては、病児・病後児保育所の設置について、ぜひ前に進めていただきたい。あわせて本市内に今後新設されるような医療機関についても、病児・病後児保育所設置に向け、本市からも積極的に働きかけていくべき。所見</p> <p>③病院に限った要綱の改正については、他都市の状況を見てというような御答弁をいただいたが、決して他都市の状況を待って判断しなくてもいいのではないかと。ぜひ要綱を変えて前向きに取り組んでいただいて、一番初めに市立病院をやっていただき、そしてほかの新たな医療機関等にも進めていっていただきたい(追加)</p>	1	0	2	3

5	<p>待機児童対策について</p> <p>①理論値の確保策ではなく、実数としての待機児童ゼロを、来年度当初に本市は達成できる見通しなのか。当局の認識 ②保育総量をふやすだけではなく、期せずして待機児童となってしまった方々を支援する施策にも取り組むべき</p>	1	0	1	2
6	<p>介護予防・日常生活支援総合事業、いわゆる新しい総合事業について</p> <p>①ここまで時間を要した要因 ②スピード感を持って周知に努めていただくと同時に、要介護、要支援認定と豊齢力チェックリストのどちらを受けるのかは利用者が決めることができることなど、特に誤解を招きやすい点については丁寧な説明を求める。今後の取り組みについて伺う ③今回のモデル事業も含めた、住民主体による支援の今後の展開について</p>	1	0	1	2
7	<p>仙台経済成長デザインについて</p> <p>①農業販売額について (目標を達成するためには新たな取り組みが必要。六次化販売額の拡大に関し、現在の課題をどのように捉え、来年度に向けてどのような新たな展開をお考えなのか) ②新規開業率について (本市における外国人創業の潜在的ニーズはどれほどあるとお考えなのか。外国人創業における仙台の他都市との優位性はどこにあるとお考えなのか) ③四つの数値目標については、達成が見込めそうなものはさらにその上を、ハードルが高いものにはそこに届くよう取り組みを進めていただき、仙台の経済成長につなげていただきたい。伊藤副市長の所見</p>	1	0	1	2
8	<p>先月の宮城県指定廃棄物等処理促進市町村会議において、県より提案された八千ベクレル以下の汚染廃棄物に関する処理方針案について</p> <p>①市民の理解を得るためには、数値の測定と速やかな公表は必須 ②本格焼却については、あくまでも試験焼却の結果や今後の議論を見てということになるが、改めて市長の考え</p>	1	0	0	1
9	<p>市役所本庁舎建てかえについて</p> <p>①本庁舎を利用しながら、建てかえる方式も考えるべき。市長の所見 ②本庁舎と音楽ホールについての複合化も本当に現地建てかえと両立することはできないのかなど、もう一度しっかりと検討した上で判断すべき。所見</p>	1	0	1	2
10	<p>奥山市長自身のことについて</p> <p>①村井知事の出馬表明について、市長はどう受けとめているのか ②次期市長選挙に対する奥山市長の現時点での思い</p>	0	0	0	0
		9	0	9	18

【コメント】

1 ①（経緯）④（進捗状況）、2 ①（未達件数等）、3 ①、6 ①⇒
事前に調べて質問する必要がある

3 ③④、4 ②③⇒
調査に基づき具体的提案を伴った質問

第3日目 (2016. 12. 12)

1 佐藤和子

NO.	質問	①事前・ 現場調査 (0~4点)	②他都市 との比較 (0~2点)	③改善案 (0~3点)	合計
1	<p>震災復興の取り組みについて</p> <p>①震災の風化について (同じ過ちを繰り返さないためにも、記録と記憶を後世に残すことは重要。メモリアル施設の計画が遅いのではないか。今後の整備スケジュール、施設の概要)</p> <p>②心の復興について (最後のお一人が心から復興できたと実感できるまで継続的な取り組みが必要。今後の取り組み)</p> <p>③県内外の被災自治体への支援について (いまだ復興途上の県内の被災自治体のみならず、岩手県、福島県への復興支援は不可欠。市長の認識。これまでの取り組みと今後の支援)</p>	1	0	1	2
2	<p>子供の心のケアについ</p> <p>①原発避難生徒のいじめ問題について (東京電力福島第一原発事故で福島県から横浜市へ自主避難した中学一年の男子生徒が、小学二年生のときからいじめを受けていたことが報道されたことについての市長の所見)</p> <p>②福島からの避難児童生徒の状況について (今回の事例を大人の見えないところで苦しんでいる子供がいると捉え、さらに状況の把握に努めるべき。今回の問題を受けて、本市としてどのように捉え、対応されたことはあったのか。避難児童生徒が不登校になっていないかなど、実態をどのように把握しているのか)</p> <p>③いじめ防止と保護者へのケア (保護者へのケアも十分に取り組むことが重要。今後の取り組み)</p> <p>④いじめ防止基本方針といじめ防止マニュアルの見直しについて (福島からの原発避難の児童生徒や被災した子供への認識、配慮、対応などを盛り込むべき。震災による心のケアを進める上で、被災地の仙台市が率先して見直しすべきではないか)</p>	1	0	2	3
3	<p>復興公営住宅の一般募集の開始について (本市においては、住まいにお困りで市営住宅を希望している市民が多くいる。一般募集に切りかえるべき)</p>	1	1	1	3
4	<p>八千ベクレル以下の放射能汚染廃棄物の試験焼却について (たとえ試験焼却であっても、市民や周辺の住民への情報提供と丁寧な説明を行い、慎重に進めていただきたい。市長の所見)</p>	0	0	1	1
5	<p>東部復興道路整備事業について</p> <p>①東部被災地域にとって、津波防災・減災の重要な役割であり、早期完成を望む。工事の安全対策にしっかり努めていただきたい</p> <p>②かさ上げ道路と東西に接続する県道井土長町線、県道荒浜原町線、市道南蒲生浄化センター一号線の津波避難道路整備について、工事の進捗状況</p>	0	0	1	1

6	<p>開業から一年を迎えた地下鉄東西線について</p> <p>①バス路線の再編の検証について (地下鉄東西線によって見直されたバス路線の再編について、この一年間で市民の要望を受けて対応されたことはどれくらいあったのか、また、どのような検証をされているのか)</p> <p>②高齢者の利用促進について (わかりやすい案内表示、地下鉄の利便性の広報など、さらなる取り組みが必要。公共・民間施設やイベントとタイアップをしての企画など、高齢者の利用促進の取り組みについての所見)</p> <p>③駐輪場利用の検証と展望台の活用について (利用者が増えない八木山動物公園の駐輪場は、別な用途の活用に見直しをしてはいかがか。今後の対策。もう少し展望を生かす工夫が必要)</p>	1	0	2	3
7	<p>臨時福祉給付金の支給に要する経費の追加について (対象となる市民へ支給されるよう周知の徹底が必要。今年度の給付金の現在までの申請状況と周知の取り組みについて)</p>	0	0	0	0
8	<p>旭ヶ丘駅公共施設建設候補地検討調査について (今度こそしっかりと検討し、結論を出し、早急に整備すべき。所見)</p>	1	0	0	1
9	<p>小中学校の大規模改造事業費等の追加について (平成二十八年度の当初予算を含め、今回の国の補正予算によりどこまで整備促進されるのか)</p>	0	0	0	0
10	<p>生活困窮者自立支援事業について</p> <p>①生活困窮者自立支援事業の実績について (予算計上の目的とあわせて、仙台市生活自立・仕事相談センターわんすてっぷと就労準備支援センターのこれまでの実績)</p> <p>②関係機関との連携 (ひきこもり地域支援センターとのさらなる連携で支援の強化をしていただきたい。関係機関との連携はどのように取り組んでおられるのか、所見)</p> <p>③市民への周知 (地域への周知、情報提供が重要。周知の取り組みについて)</p>	1	0	1	2
11	<p>病児・病後児保育事業について</p> <p>①近年の利用状況の認識 (近年の施設ごとの利用状況をどのように分析されているのか。病院の併設。課題)</p> <p>②今後の拡充と周知の取り組みについて (対象となる年齢を生後六カ月から生後三カ月へ拡大、土曜日の開設、施設の拡充を求める声が寄せられている。今後の拡充とさらなる周知の取り組み)</p>	1	0	1	2
12	<p>仙台市デイサービスセンター条例の一部を改正する条例に関連して</p> <p>①総合事業への今後のスケジュールと事業者の意向調査の状況</p> <p>②介護の担い手の確保 (どのように行政としてサポートしていくのか)</p>	0	0	1	1
13	<p>平成三十年度完成予定の西多賀市民センター及び児童館改築工事について (洋式トイレの整備、和室椅子の確保はどのように整備されるのか、概要。既存の市民センターにおいても整備すべき。所見)</p>	1	0	1	2

14	<p>本庁舎建てかえについて</p> <p>①本庁舎建てかえについての市長の御判断が早ければ、議会棟のバリアフリー化が早くなる。改めて早期の判断を求める</p> <p>②整備手法について</p> <p>③庁舎と民間施設の複合化等、できない理由ではなく、どのような手法を用いればできるのかとの視点で検討すべき。建てかえの事業費縮減は必須であり、そのために民間の力を活用することは不可欠。所見</p> <p>④豊島区新庁舎視察で感じたこと</p>	1	1	2	4
		9	2	14	25

【コメント】

1①, 2②, 5②, 6①, 7, 10①, 11①, 12①⇒
事前に調べて質問する必要がある

2, 6, 14⇒
具体的な提案を伴った質問

第3日目 (2016. 12. 12)

2 庄司あかり

NO.	質問	①事前・ 現場調査 (0~4点)	②他都市 との比較 (0~2点)	③改善案 (0~3点)	合計
1	<p>地下鉄東西線とバス路線再編について</p> <p>①バス路線を検討するには、町内会、老人クラブ、商店街振興組合などの要望を聞き、生かすべき ②バス路線を見直さないという方針を示すつもりなのか ③市民が一年間待ちわびたバス路線の見直しなのに、見直しをしないどころか、この方向では、市民にとって、さらにバスが減らされ不便になるのではないか。バスを縮小する方向ではなく、バス事業の健全化対策補助金を増額し、市民の足を守り充実させるべき ④市民から寄せられたたくさんの苦情や要望に応えようとしなないというのは傲慢。市長も、議会で一年たったら見直しすると言ってきた。これは市民との市長の約束。市長はどのように考えているのか(追加) ⑤市長が市民との約束を果たすために、そういう決断をすることこそ必要。市長が政治判断を行うべき(追加)</p>	1	0	2	3
2	<p>待機児童の解消について (公立も民間も、求められているのは六歳まで通える認可保育所の増設。公立保育所廃止の方針はやめて、認可保育所の整備に市が力を入れるべき)</p>	1	0	1	2
3	<p>マイナンバーについて</p> <p>①第百四十四号議案仙台市個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例は、保育の実施、国民年金の審査、子ども・子育て支援法による教育・保育給付等について、市独自でマイナンバーの利用を拡大するもの。条例案が議会で承認される前から、先取りでマイナンバーを集めているということか。議会軽視も甚だしい ②マイナンバーを利用する事務が広がれば広がるほど、システム構築などでIT関連企業がもうかる仕組み。一方で市民にとっては、準備書類がふえ、手続は面倒になる。個人情報が入る番号でひとつつけられ、情報漏えいのリスクが格段に高まるマイナンバー制度は廃止すべき。独自に利用を拡大するなどのもつてのほか</p>	1	0	1	2
4	<p>教育環境整備について</p> <p>①体育館のトイレ改修とともに、やはり系統ごとの改修について抜本的な予算措置を行い、ペースアップを図るべき ②エレベーター設置についても直ちに補正予算を組み、障害のある子供たちにも安心の教育環境を整えるべき</p>	2	0	1	3
5	<p>来年四月、宮城県から権限が移譲されることに伴い、教職員の給与を定めるための条例改正案について (県の水準を維持することを基本原則に据え、自治体の判断でいつでも変更可能な手当によって教職員の給与が不利益とならないようにすべき)</p>	0	0	1	1
6	<p>仙台市デイサービスセンター条例の一部を改正する条例について (これによって通所型サービスは、現行のサービス水準の通所介護型サービスに加え、運営基準や人員基準を緩和したサービスにまで道を開くものになってしまう。市のデイサービスセンターで緩和型が導入され、サービス水準の後退や利用料金の負担増があってはならない)</p>	1	0	1	2

7	<p>復興公営住宅の増設について</p> <p>①限られた空き住戸の入居調整を十数回も繰り返すのではなく、復興公営住宅の増設を決断すべき ②原発事故の避難者の方のために、入居要件の緩和を行い、復興公営住宅への入居を支援すべき ③国の交付割合が変わる六年目からは段階的に家賃を引き上げ、十一年目から本来家賃に達するようにしていくということは、被災者にも議会にもそのような説明はされていない。いつ方針が変わったのか ③市は、説明をしてこなかった責任をとって、六年目からの家賃値上げを行うべきではない。市が独自の支援策をつくることで国を動かすべき ④六年目からの家賃値上げの説明はしてきていない。説明をしてこなかったのは市の過失なのに、入居者にしわ寄せが行くのはおかしい。市の独自施策で、軽減された家賃を十年間保障すべき（追加） ⑤家賃の値上げを説明もしてこないで突然押しつけるなどというのは、大変問題。市が説明してこなかった責任を果たすべき（追加）</p>	2	0	2	4
8	<p>民間賃貸住宅の家賃補助について （仙台市でも独自の家賃補助制度をつくり支援すべき）</p>	1	1	1	3
9	<p>未修繕家屋について （市内には多くの住宅が被災したまま修繕することもできず取り残されている。応急修理制度や公費解体を早々に打ち切ってしまったことや、経済的な事情で修繕できないというのが大きな理由。こうした住宅への修繕費補助を行うべき）</p>	1	0	1	2
10	<p>医療、介護の免除制度について （被災者の命綱である医療、介護の免除制度を市の決断で復活すべき）</p>	1	0	1	2
11	<p>防災集団移転跡地の利活用について</p> <p>①大切なのは被災者の声に応えること ②震災後も住民や被災地を訪れる人の集まる場となってきた取り組みについては、今後も継続していけるよう配慮すべき。現地で活動を続けてこられた方々の意見を利活用事業に生かすべき ③跡地利活用の方針を取りまとめる中でも、防犯対策を位置づけ、早急に手だてを講じるべき</p>	1	0	1	2
12	<p>企業立地を目的に工場等の緑地面積率などについて緩和した基準を定める条例について （蒲生北部地区では住民を追い出し、茂庭地区では田んぼを潰し、企業誘致促進のための規制緩和を行うべきではない）</p>	1	0	1	2
13	<p>市長等の給与に関する条例の一部を改正する条例について</p> <p>①市民には財政難だと言ってサービスを削って、負担増を押しつけているのが奥山市政。そうした中で市長や副市長の期末手当は引き上げるといふ提案に、市民の納得は到底得られない。財政難はごまかして、市の財政が本当は豊かだということなのか。それとも、市民の暮らしよりも奥山市長の期末手当の引き上げのほうが優先度が高いと判断したのか。どちらか ②同じことが私たち議員にも問われる。期末手当の引き上げを行うべきではないと主張した会派が日本共産党仙台市議団を含めて複数あったにもかかわらず、当局はなぜ議案を提出したのか。その理由 ③パスに関する要望も聞かない、被災者にも大変冷たい。そういう状況の中で市長の期末手当を上げるなんていうのは、市民からも被災者からも納得は得られない。引き上げるべきではない（追加）</p>	1	0	2	3
14	<p>T P Pについて （奥山市長は、T P Pに関して農業の分野においては一定の影響が想定されると慎重姿勢を見せていたが、及んでくる影響は農業分野だけではないことを認識し、今こそ国に反対の意思を表明し、承認撤回を求めるべき）</p>	1	0	1	2

15	<p>県内にある八千ベクレル以下の放射性廃棄物の県内での一斉に焼却処理について</p> <p>①問題になっている放射性廃棄物を発生させた責任は東京電力にある。八千ベクレル以下の農林業系汚染廃棄物については市町村が担うとした特措法そのものが間違っていると国に意見を上げ、県内の放射性廃棄物については東電と国に管理の責任をとらせることこそ、真っ先に取り組むべき。</p> <p>②放射性廃棄物の県内一斉焼却、そのための試験焼却にはきっぱり反対すべき</p>	1	0	2	3
16	<p>南スーダンでのPKO活動について (憲法違反の安保法に基づく新任務の実施をさせず、自衛隊は撤退させるよう国に声を上げるべき)</p>	1	0	1	2
		17	1	20	38

【コメント】

1 ①②③④, 7 ②③④, 1 3, 1 5 ①⇒
重要な指摘を含む質問

第3日目 (2016. 12. 12)

3 ひぐちのりこ

NO.	質問	①事前・ 現場調査 (0~4点)	②他都市 との比較 (0~2点)	③改善案 (0~3点)	合計
1	<p>十二月四日から十日までの人権週間に関連して</p> <p>①アメリカ大統領選挙でも見られた人種差別、同性愛差別、女性蔑視などの人権侵害行為が人気を得る傾向にある。市長は、このような政治の場での発言や諸問題についてどのように認識をしているのか</p> <p>②国の取り組みだけではなく、地方公共団体もあらゆる機会を捉え、さまざまな組織等と連携して行わなければならない。所見</p> <p>③人権擁護委員はこれら活動を無報酬で行っているが、身分保障や活動について有給とすることが必要との声も上がっている。人権擁護委員の活動についての市長の所見</p> <p>④人権擁護委員が、人権侵害などの予防の意味を含め、地域のサロンや学習支援の場、こども食堂などに出向き、身近に話し合える環境づくりについて検討すべき</p> <p>⑤本市は四月から、仙台市障害を理由とする差別をなくし障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例が施行された。条例施行から八カ月たつが、条例が生かされた施策や今後の取り組みについて伺う</p>	1	0	1	2
2	<p>東京電力福島第一原発事故に伴う放射性物質で汚染された、国の基準以下の廃棄物処理問題について</p> <p>①本市は国や県及び東京電力に対し責任の追及をすべき</p> <p>②県は、他市町村とともに本市に対しても焼却処分だけを示しているが、どのくらいの量を引き受けてほしいのか、運搬や焼却作業などについてもどのような手法や工程で行うのか、放射線量調査の手法や箇所数、公表についてなど明確にしていない。このような中、拙速に焼却処分ありきで話が進むことや、全て県の意向に従わせるといったことは大きな問題。本市は、県に対してしっかりと具体的に説明をすること、各市町村の意向を尊重することを求めるべき</p>	1	0	2	3
3	<p>生活困窮者自立支援事業に係る債務負担行為の設定及び被保護者就労支援事業に係る債務負担行為の設定について</p> <p>①相談体制や支援員の専門性や研修などを含め、これまでの実績</p> <p>②個別の対応も重要。働く人を守るための法律を含む問題状況を打開するための教育や実践を含めた幅広い専門家などとの連携が必要。</p> <p>③就労への最初の一步として職業体験が重要だが、体験できる事業所が少ないことが課題。就労準備支援事業を受け入れる職場に対し、本市としてインセンティブを検討すること、また、国による助成金制度について広く知らせ、その活用を図ることや具体的な申請、運用の方法を伝えること、そのためには地元の事情に精通した専門職の紹介や連携、さらに相談者に対してジョブカードなどによる客観的な視点を活用した就労への取り組みについても検討すべき</p>	2	0	2	4
4	<p>臨時福祉給付金の支給に関する二十九億七千万円余について</p> <p>①申請漏れがないような対策について伺う</p> <p>②時福祉給付金の支給を自治事務と位置づけることについての考えを伺う</p> <p>③国が実施する給付金は、民生費支出として自治体の支出の民生費比率をさらに押し上げる。このことを割り引かず、中身の検証なしに、民生費の増大という安易な批判が行われる可能性もある。本質を見誤ることのないような論議が必要</p> <p>④一方で課税し、もう一方で給付するという事務作業を膨らませるだけの国の制度設計については疑問に感じる。見解を伺う</p>	1	0	1	2

5	<p>通所型短期集中予防サービス事業について</p> <p>①複合プログラムについての論議と想定される効果、また、プログラムの実施回数について現行より低下することについての懸念があるが、考えを伺う</p> <p>②主治医の意見書が求められなくなることについて懸念がある。自治体によっては必要に応じて主治医の意見を求めるとしているが所見</p> <p>③好事例とともに効果が薄かった事例も検証し、改善の成果が介護サービスによるものだけかについての評価は慎重にすべき。介護費抑制のために成果を求め、結果的に高齢者が取り残され、事業者も健全な事業展開ができなくなるのは本末転倒。所見を伺う</p> <p>④介護給付だけでなく、介護予防などに関する費用の優先的な確保を求める</p>	1	0	1	2
6	<p>仙台市個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例について</p> <p>①マイナンバー制度の将来像や財政負担を本市はどのように考えているか</p> <p>②これまで返送されたりして本人に伝わらなかったと想定される数及びマイナンバーの通知カードの受け取りを拒否した人数</p> <p>③さまざまな事由によりマイナンバーを記入しない、できないことにより、行政サービスを受けられないかもと申請などを控える可能性も考えられる。記入しなかった場合にも申請は受理されることをさらに丁寧に説明することが肝心</p>	1	0	1	2
7	<p>若林区中央児童館の名称及び位置を変更し、太白区中央児童館の名称を変更する条例について</p> <p>①中央児童館という名称にした経緯。これまでの中央児童館事業についての検証</p> <p>②これまでの実績をないがしろにする、余りにも性急な変更と考える。児童館現場の声を施策に生かしたのか疑問。決定に参画したメンバー及び変更に至った論議の経過について伺う。あわせて、中央児童館の名称が変わることによる体育指導員の位置づけについても伺う</p> <p>③児童クラブ事業推進室の職員は正職九名。この人数で本市百十児童館のネットワークの構築ができるのか疑問。具体的な構築の仕方も含め伺う</p>	1	0	2	3
8	<p>児童クラブについて</p> <p>①本市において予想される支援員不足及び処遇改善についてはどのように考えているのか、解決策も含め伺う</p> <p>②国に対して強く求めるべきだと考える</p>	1	0	1	2
9	<p>庁内LANにおける総合行政ネットワーク接続系とインターネット接続系を分割し、総合行政ネットワーク環境のセキュリティーの確保に資することについて</p> <p>①総合行政ネットワーク環境に本市の庁内LANをつなぐ行為は、法定受託事務なのか、自治事務なのか。根拠法</p> <p>②具体的な研修や説明</p> <p>③情報セキュリティー構築費用並びに運用、改修費用と情報漏えいリスク費用のバランス</p> <p>④日々複雑化、巧妙化するサイバー攻撃に対し、担当セクションとして、最新の情報の入手や対応、技術力の向上や継承を講じなければならない。万が一情報漏えいがあった場合、被害を最小限に食い止めることや流出データやルートの把握、さらには再発防止策の構築のためにも事件の公表を含めた対策をしておくべき。全体で個人情報の取り扱いに関する研修やリスク管理、法令遵守について対策を講じるべき</p>	1	0	1	2

10	<p>指定管理者の指定に関する件について</p> <p>①葛岡 斎場並びに社会福祉施設である老人福祉センター、デイサービスセンターは非公募による選定に該当すると思われる。公募となった経緯と理由</p> <p>②指定管理者の選定においても、市発注工事の入札格付の評価項目と同様の評価項目を加えることと、それを就労準備支援事業の受け入れ事業者の評価項目にも加えることを求める</p> <p>③応募団体も落ちつきが見られており、指定管理者制度自体の見直しの検討を求める</p>	1	0	2	3
		11	0	14	25

【コメント】

1 ③④⇒
 人権擁護委員の活動と身分の保障について、他の都市の事例を調査して質問すべき。8 ①についても他都市の支援員の処遇を調べて質問すべき。

9 ①③, 1 0 ①⇒
 事前に調べて質問すべき

1 0 ⇒
 指定管理者の選定システムは重要。継続的調査が望まれる

第4日目 (2016.12.13)

1 高橋卓誠

NO.	質問	①事前・ 現場調査 (0~4点)	②他都市 との比較 (0~2点)	③改善案 (0~3点)	合計
1	<p>本市の起業支援について</p> <p>①アシスタを開設して約三年を迎える時期に当たり、現在までの実績と今後の見通し。起業してからどう継続させるのか、何か施策が用意されているのであれば、そちらも紹介いただきたい</p> <p>②若い世代が長期にわたって定着することも可能にし得るため、既存の中小企業と連携した人材育成や新たな産業、また雇用機会をいかに維持、創出するのか。若者が住みたいと思える暮らしの快適性や機能をどう高めるのか、所見</p>	1	0	1	2
2	<p>仙台市内の大学生が海外に羽ばたける機会をつくることについて</p> <p>①文化観光局でインパウンド事業を企画、担当する部署職員の中で、海外に出たことがない方がいるのか尋ねる</p> <p>②人材育成、流出の観点で、福岡市で行われているスタートアップ奨学金は、仙台市にも適した制度。本市が主導し、同等もしくはよりよい制度を構築するべきではないか</p>	1	1	2	4
3	<p>青葉山公園及び周辺施設について</p> <p>①青葉山公園整備事業計画は、市民から広く意見を取り入れているのか尋ねる</p> <p>②建設局だけでなく、コンベンション誘致等にかかわる文化観光局、文化財にかかわる教育局との横軸できちんと話し合いの場を設けているのか、そして、話し合われているのであれば、どのような意見調整が行われてきているのか、現状の報告</p> <p>③広場は屋外メッセ会場になるようなものとして整備するのか。何も施設を建てない考えであれば、せめて多目的機能を持たせるべき。夢や希望の持てるものを整備するべきではないか</p> <p>④フィギュアスケートと言えば仙台と思われるもおおしくない条件がそろっているのに、国際大会ができるスケート施設がないのは非常に残念。ぜひ子供たちに夢や希望を与えていただきたい。所見</p>	1	0	2	3
4	<p>二〇二六年に開催される冬季オリンピック開催都市への立候補について</p> <p>①二〇二六年に開催される冬季オリンピック開催都市へ、本気で山形市と連携し立候補するべき、所見</p> <p>②山形等含めて他都市と、情報収集していくということだが、これは話の場に出すのか出さないのか（追加）</p>	0	0	1	1
5	<p>青葉城址について</p> <p>①プロジェクションマッピングによる本丸の再現についての所見</p> <p>②大手門復元について（現在どのような検討状況なのか）（大手門復元を夢見ている方々に対し、これ以上むやみに先延ばしなどを図らないよう、現実性のある答えをお願いしたい、大手門復元をどこまで本気で考えているのか）</p> <p>③大手門の復元は本当に行われるのか、全く見えてこない。その本気度が伝わらない。もう一度、答弁をお願いする（追加）</p>	1	1	2	4

6	<p>市民目線の観点から</p> <p>①当局の答えに検討という言葉をよく聞くが、その検討結果は議員に報告しているのか。過去の議事録を見ても、問題に対してどう対処しているのか、全く見えてこない。誠実にお答えいただき、議会だけでなく個別でも報告していただきたい</p> <p>②去年の第三回から今までの議会で、実に九百六十回、検討という言葉を使っているが、それを全て管理されているのかどうか（追加）</p>	0	0	1	1
		4	2	9	15

【コメント】

1 ①, 2 ①, 3 ①②⇒
事前調べて質問する必要がある

1 ②⇒
具体策を質問者側で指摘する必要がある

2 ②, 3 ④, 5 ①③⇒
具体的提案を伴った質問

第4日目 (2016. 12. 13)

2 平井みどり

NO.	質問	①事前・ 現場調査 (0~4点)	②他都市 との比較 (0~2点)	③改善案 (0~3点)	合計
1	<p>仙台市としての音楽ホール整備について</p> <p>①教育の点からも、文化施設としての良質な音楽ホールはなくてはならないもの。当局の見解</p> <p>②当局としては、経済効果についてはどのように考えられているか</p>	1	0	1	2
2	<p>本市における私道の扱いについて</p> <p>①本市の道路全体に対しての私道の占める割合はどのくらいか</p> <p>②本市にある私道は、時代的にいつの時代に登記されたものが多いか。全体としての傾向</p> <p>③破損箇所をかかえた私道に対して、本市としてはどのような対応をしてきたか</p> <p>④破損箇所を、行政として修繕し回復させることはできるか</p> <p>⑤税金の対象になっていないという事実から見て、私道でありながら、一方では公の道路の意味合いに近いものがある。この点についての認識</p> <p>⑥現在に至るまで、市民からの私道についての修繕の要望はあったか。過去に私道の修繕の要望があったとすれば、どのような回答及び対応をしたか</p> <p>⑦この問題を解決するために私道を寄附してほしいとか、修繕をしてほしいなど、住民と住民が提案、調整することは、住民の方の負担が大き過ぎる。これらの提案、調整は住民の役割ではないと考えるが、いかがか</p> <p>⑧本市は、立場上、法律遵守の姿勢は当然だが、だからといって、その土地に住む方々の善意に全てを託してしまっているのか、見解</p> <p>⑨これらのことについて、考え方の方向性</p> <p>⑩空き家については、国が動き、特措法ができたが、一方、私道については目立った動きはない。空き家対策の考え方を、公共の福祉の観点から、私道に対しても適用できるのではないか。本来ならその持ち主が責任を持って管理監督をしなければならないところ、何らかの事情によりそれらが行われず、そのことによって近隣もしくは地域住民の不利益になる場合、行政がそのことが是正されるよう率先して改善の方向へ指導していくべき。見解</p> <p>⑪（私道修繕について）一歩踏み込んで、行政のほうから一言提案という形でこんな方法がありますと、提示することはできないのか（追加）</p> <p>⑫考え方として、空き家等のそういう条例のような考え方ができないか。このまま放置しておけば、問題は延々と続き、住民の方も困る。そこをどのように考えられているか（追加）</p>	2	0	2	4
		3	0	3	6

【コメント】

- 1 ②⇒
他都市の事例を調べて質問すれば効果的
- 2 ①②③⑥⇒
事前に調べて質問する必要がある
- 2 ⑦⑧⑩⇒
これも他都市の事例を調べて質問すれば効果的

第4日目 (2016.12.13)

3 佐々木真由美

NO.	質問	①事前・ 現場調査 (0~4点)	②他都市 との比較 (0~2点)	③改善案 (0~3点)	合計
1	<p>防災ジュニアリーダーの育成について</p> <p>①本市として、東京都荒川区中学校の部活動としての防災の取り組みについての所見 ②本市としても、地域活動に貢献できる人材を育成するため、荒川区防災部のような常設の場を設けることが大事。活力ある中学生が常日ごろの訓練、活動ができる防災ジュニアリーダーの育成に取り組むべき</p>	1	2	2	5
2	<p>実効性のある防災訓練について</p> <p>①段ボールベッドを活用した防災訓練について（避難所運営の訓練として段ボールベッドの組み立て実技訓練を取り入れるべき） ②ペット同行の防災訓練について（本市としても、総合防災訓練の中で、町内会との協働によるペット同行避難訓練を開催しているが、京都市のようによりペットに重点を置いた防災訓練も大事）</p>	1	2	2	5
3	<p>青少年雇用促進法に基づき、若者の採用、育成に積極的で、若者の雇用管理の状況などが優良な企業を国が認定するユースエール認定制度について</p> <p>①本市としてユースエール制度認定の企業は何社あるのか ②今後も中小企業が発展し続けるため、ユースエール認定を受ける企業が多くなってほしい。この制度に関する本市の周知広報の取り組みについての所見</p>	2	0	2	4
4	<p>マイナンバーカードの普及啓発について</p> <p>①マイナンバーカード申請の本市の課題と、さらなる機能啓発の取り組みについての所見 ②全国の公共施設等で利用可能で、民間のポイントカードをマイナンバーカードに付与し商店街等で使えるシステム、マイキープラットフォームを早急に構築し、マイナンバーカードの多目的化や地域活性化を図るべき</p>	1	0	1	2
		5	4	7	16

【コメント】

1, 2, 3⇒
調査に基づき、具体的提案を伴った質問

3①⇒
事前に調べて質問する必要がある

第4日目 (2016.12.13)

4 ふるくぼ和子

NO.	質問	①事前・ 現場調査 (0~4点)	②他都市 との比較 (0~2点)	③改善案 (0~3点)	合計
1	<p>市民とともに取り組むごみゼロの循環型社会を目指し、焼却から脱却する一般廃棄物処理政策について</p> <p>①市長は、実態をその目でごらんになって、ごみ減量を進めるには分別こそが必要だと感じなかったか。仙台市のこれまでのごみ減量施策に対する分析と課題についての市長の所見</p> <p>②ごみ減量を進める最も有効な手段は、有料化などの経済的負担を求めることではなく、市民と事業者と行政が力を合わせて、目標に向かって具体的な取り組みを進めること以外にはない。なぜごみ減量が必要なのか、循環型社会を市民とともに形成する目的は何なのかをもっと明らかにして、前面に押し出して、市民に伝え、協働を呼びかけるべきではないか</p> <p>③ごみ処理基本計画を策定する本来の意義に立ち返って、ごみ減量施策推進の目的を明らかにし、市民とともに取り組む目標を高く掲げて、3Rを軸にした施策展開をすべき。いかがか</p> <p>④これまで大都市では生ごみ回収の実現性は低いと考えられてきた傾向があるが、今こそ発想の転換で、生ごみ、食品廃棄物の処理ルートをつくるなど、実施に向けた検討を行うべきではないか</p> <p>⑤仙台市では、現在、事業系のごみについて、どれだけの生ごみ、食品廃棄物が焼却されているか、五年に一回、計画策定の際に調査するだけで、その実態を把握していない。実態調査を行うべき。いかがか</p> <p>⑥大量の食品廃棄物を排出する事業所には、ごみを出さない企業努力を行うとともに、フードバンクや子供食堂への支援などに積極的に参加してもらいながら、生ごみ回収の対象にして、大量焼却から脱却する仕組みをつくるのが大切。事業系の食品廃棄物も回収し、再生利用に参加させていくことが、食品廃棄物を焼却しないための大事な取り組みとなると考えるが、いかがか</p> <p>⑦新聞紙や雑誌、雑紙など資源化できる紙類は、子供会や町内会などの集団資源回収への支援の強化はもちろん、家庭ごみから紙ごみをなくすためにも、わかりやすく毎週の定期回収にすべき。いかがか</p> <p>⑧プラスチックの分別については、容器包装以外の処理費用については市が負担してでも、その全量を分別回収すべき。瓶、缶、ペットボトル、乾電池などは、市民の手で品目ごとに分別し、品目ごとに回収する仕組みに変える工夫が必要、分別されたごみが資源としてどのようにリサイクルされ循環しているかが、もっとわかるようにすべき。集積所の問題は、回収日を現在の週一回を週二回にするなどすれば可能。そうした発想の切りかえや工夫こそが大事。いかがか</p> <p>⑨子育て応援、子育てに優しい仙台市、高齢者も安心して暮らせる仙台市というなら、紙おむつの分別回収に率先して取り組むべきではないか</p> <p>⑩事業系の紙ごみをどう分別するか、仙台市が一緒に知恵を出すことが大切</p> <p>⑪環境事業所まで持っていかななくてももっと身近な場所ですせるように、事業所専用の紙類回収の集積所を細かく設置するなど、工夫し、提案していくことが大事。いかがか</p> <p>⑫仙台市でもゼロウェイスト宣言を行って、市民とともに取り組むごみゼロの持続可能な循環型社会を目指そうではないか。このことを強く市長に呼びかけ、市長の決意を伺う</p> <p>⑬できないことを理由をつけて説明をされるということを頑張られれば、市の本気度が問われて、むしろそこに本気度がないんじゃないかということが証明されていくという関係になっていく。改めてそういうことでいいのかという点について、確認も含めて、再答弁を求める(追加)</p> <p>⑭ごみ減量には分別、3Rの徹底なんだと、その認識をしっかりと示していただきたい。その点、再度答弁をいただきたい(追加)</p>	2	2	3	7

<p>⑮食品廃棄物、生ごみの取り組みについて、生ごみ回収処理に取り組むべき課題だというふうに位置づけているのかどうか。認識、位置づけを明確にしていきたい（追加）</p> <p>⑯広島ではゼロエミッションという言葉でごみ減量を掲げた。仙台市でもぜひ高い目標を定めて思い切って取り組みを進めましょうと提案を申し上げたわけで、ゼロウェイストを目指したいという市長の決意をもう少し明確に示していきたい（追加）</p> <p>⑰目標の設定については、計画期間中でも途中の変更というものも十分可能であるから、見直す、そうした展望も、この場で一定明言もしながら、さらにそのごみ減量の取り組みを行いましょうという、市民に対しての呼びかけをぜひこの場で市長にしませんかと、再度尋ねる（追加）</p>				
	2	2	3	7

【コメント】
<p>仙台市の一般廃棄物処理政策の問題点を整理し、他都市の調査も踏まえ進むべき方向性を示した質問</p>

第4日目 (2016.12.13)

5 相沢和紀

NO.	質問	①事前・ 現場調査 (0~4点)	②他都市 との比較 (0~2点)	③改善案 (0~3点)	合計
1	<p>圃場整備事業とそれに伴う市道の整備と廃止について</p> <p>①現在の進捗状況と今後のスケジュール、さらに総事業費の見込み ②圃場整備事業における農道の整備はどのような方針で行われているのか ③道路の配置計画について（十一月五日に開催された六郷五ブロックの地権者に対する説明会の場で、市道の廃止案について異論が出された。圃場整備計画は、農政局や仙台東土地改良区、地元農業者、そして市経済局など、関係者による検討を経て計画を策定するわけであるが、その際に市道を管理する建設局道路部などとの間で、非公式な場も含めて調整、協議が行われて、計画案の提示となったのか伺う。あわせて、市道の構造や使用部材等、工事仕様については道路部との協議が行われているのか伺う）</p>	2	0	2	4
2	<p>七北田川の氾濫防止策と河川管理に対する本市の基本的な考えについて</p> <p>①七北田川も両岸や川床に繁茂した樹木の伐採などの管理がしっかり行われていなかったのではないかと。昨年のような豪雨があれば（北海道の清水町のペケレベツ川と）同様の災害が発生する可能性が高い。現状をどのように見ているのか ②地域住民の改善要望をどのように集約され、さらに本市として管理者である宮城県に対して地域要望をどのように伝えているのか。地域住民へはどのようにフィードバックされているのかもあわせて伺う</p>	2	2	2	6
3	<p>馬橋の復旧時期について</p> <p>①開通時期はいつごろになるのか ②河川管理者等の関係機関とこの間、どのような協議が行われてきたのか ③七北田川の河口を含めた下流域の砂だまりについて（七北田川の河口部分の川幅が二十ないし三十メートルしかなかった。さきのような川幅では大雨の際に仙台湾への排出機能が十分に果たせないのではないかと。七北田川についても早急に砂だまりの撤去、しゅんせつを求める。宮城県との協議はどのようになっているのか伺う）</p>	2	0	2	4
4	<p>河川管理のあり方を見直す時期に来ているのではないかとということについて</p> <p>①二〇〇〇年に施行された地方分権一括法により、河川管理についても、県が管理している河川の政令市に移譲が可能となった。本市においても検討がされたと認識するが、どのような判断で権限移譲に至らなかったのか。 ②さきの大震災と津波被害の復旧事業が余り進んでいない状況や、今回取り上げた大雨による洪水対策などを考えると、貞山運河の管理を含めた広瀬川と七北田川全体の管理を宮城県から権限移譲を受けることは、住民の安全・安心の確保という点からも、さらに貞山運河の利活用においても、有用である。市の管理について検討に着手すべき、所見</p>	1	0	2	3

5	<p>TPP協定について</p> <p>①現在、WTO案件として一般競争入札に該当する大型工事は、大震災以降五年間でどの程度の案件があったのか、具体の工事事例。海外企業が受注した事例があったのか伺う</p> <p>②今回の協定が発効すれば、大幅に契約金額が引き下げられるとの情報もある。これに伴う諸問題に対する対応策を現時点でどのように考えているのか。公共事業そのものが海外企業のための事業、つまり利益にされる危険性がある。TPP協定が、逆に地域経済を冷え込ませる要因となる。ひいては、市民法人税の減少など本市の財政にも大きな影響を及ぼす可能性が高い。これら本市の財政運営などにTPP協定に対する所見を伺う</p>	1	0	1	2
		8	2	9	19

【コメント】

1 ③, 2 ①, 3 ③⇒
現場調査、他の都市の調査に基づき具体的な問題点を指摘する質問

1 ①, 3 ①②, 4 ①, 5 ①⇒
事前に調査して質問する必要がある

第4日目 (2016.12.13)

6 柳橋邦彦

NO.	質問	①事前・ 現場調査 (0~4点)	②他都市 との比較 (0~2点)	③改善案 (0~3点)	合計
1	災害対策法制の見直しについて (国の災害救助法の主体が都道府県知事に限定されることの不都合) (現時点、その法制改革への進捗状況、わけても年内から年度内までの 運び方や日程について、また、でき得る限り詳細な分析と予測)	0	0	0	0
2	最近の社会情勢、頻発する諸般について ①大きいことがいいとは言えない。小さなものにも美しさはある。ス モールイズビューティフル。そして、モアスモール、もっと小さくとも いい。それに耐え得る、自立し連帯する市民と一緒に、輝く仙台の創出 に向かわねばならない。市長のこのことへの見解、三選出馬への意向 ②本庁舎と音楽堂の方針決定をする流れができているが、今回は本庁舎 ファーストに絞り込むべき ③ここは一旦間を置いて、いま一度熟慮を重ねるときが必要。今が静か に考えるべきとき、市長の見解	0	0	0	0
		0	0	0	0

【コメント】

1⇒
「進まない状況」は事前に調べて質問する必要がある

2①⇒
質問の趣旨がやや不明

第4日目 (2016. 12. 13)

7 佐々木心

NO.	質問	①事前・ 現場調査 (0~4点)	②他都市 との比較 (0~2点)	③改善案 (0~3点)	合計
1	<p>危険通学路の対応について</p> <p>①平成二十六年度、平成二十七年度の対策が行われていない箇所数と今後の対応 ②道路が狭い、歩道が狭い箇所については、交通量と危険度をランク分けして、要望の多い箇所については朝の通学は車の通行を禁止するなど思い切った対策をしなければいけない。担当局の所見 ③希望ある子供たちが通学中に痛ましい事故でとうとい命を失うことを防ぐために、より安心・安全な対応を求める。トップリーダーの市長の所見</p>	1	0	2	3
2	<p>地下鉄東西線について</p> <p>①東西線連携推進会議では、利用促進のためにさまざまな課題、問題がある中で、具体的にこれまでどのような提案がなされているのか、座長である稲葉副市長に伺う ②ラッピング車両の導入の提案。熊本県を支援すべく多くの鉄道ファン、アニメファンが訪れているワンピースのラッピング列車の企画を本市も生かしてみたいか。仙台七夕まつりでのジョジョとのコラボにどのような効果があったのか、文化観光局の所見。東北楽天ゴールデンイーグルスの車両としてデザインをするのもおもしろい。伊達政宗公の車両をデザインにしてもおもしろい。現在は全ての駅にホームドアが設置しているので（駅全体で車両全体が見えないため）、一定の工夫が必要とも認識している。そういった課題、問題を乗り越えて事業実施することで、魅力ある東西線ができ、利用者増加につながると思う。担当局の所見</p>	1	1	2	4
3	<p>落書き対策について</p> <p>①橋の支柱など、発見した箇所が国土交通省の管理しているところについては、誰が消去を行うのか。担当局の所見 ②空き家について、本市において所有者の確認できない空き家は何件あるのか、そういった箇所についての落書きの消去についてはどのように対応するのか</p>	0	0	0	0
4	<p>歯科医療の取り組みと妊婦歯科健康診査とフッ化物洗口について</p> <p>①受診券方式による個別健診として実施することになったことを契機に、さらなる受診者向上をするために周知方法を充実すべきと考える。現在どのような周知方法をしているのか、担当局の所見 ②広く若い世代の市民の方に情報を発信する上で、SNSの活用は非常に有効。受診率の上昇により予算が不足にならないように、どのように対応しているのか ③フッ化物洗口について （幼稚園、保育所のフッ化物洗口未実施の施設はこのデータをもとに施設や保護者にしっかり説明を行い、全ての施設で取り組みを行っていただくことを目指す必要がある）（小学校のフッ化物洗口パイロット事業を青葉区一校だけではなく、仙台市内の各区に一校ずつの設置をすべき。費用についても小学生の歯と口の健康を守る観点からも、補助金や助成金で予算組みをして対応していただきたい。市長の所見）</p>	2	0	2	4
		4	1	6	11

【コメント】

1 ①, 2 ①, 3 ①②, 4 ①⇒
事前に調べて質問する必要がある

2 ②, 4 ②③⇒
具体的提案を伴った質問

第5日目 (2016. 12. 14)

1 渡辺敬信

NO.	質問	①事前・ 現場調査 (0~4点)	②他都市 との比較 (0~2点)	③改善案 (0~3点)	合計
1	<p>本市のインバウンド施策に関連して仙台塩釜港の利活用について</p> <p>①港湾に関する本市の窓口はどの部局が責任を持って対応していくのか ②本市でも、仙台空港と仙台港を一体的に所管する縦割りではない横断的な窓口が必要であると考えが、いかがか ③本市では、仙台経済成長デザインを掲げ、平成二十九年までに年間観光客入り込み数二千三百万人と目標を掲げているが、仙台観光国際協会と連携を図り、なお一層進めていくべき。現在の進捗状況と、確実に目標を達成していくための今後の取り組みについての決意</p>	1	0	1	2
2	<p>地下鉄東西線及びバス路線再編について</p> <p>①バス路線再編を行った地域に路線や便数を見直ししない旨の説明を、市民の方々へ丁寧に行う必要と責任がある。当局はいつまでにどのような形で関係する地域団体や市民の方々へその説明を行っていくおつもりなのか ②東西線と南北線の運行状況を連動させ、乗りかえにストレスを感じる事のないダイヤ改正にすべき。当局の所見</p>	1	0	1	2
3	<p>ふるさと納税について</p> <p>①メニューの入れかえや見直しについては、いつの段階で見直しに着手していくのか、今後の取り組み ②次年度以降の体験型サービスに関する返礼品の検討状況や見直し ③仙台ふるさと応援寄附の返礼品として、体験型サービスのメニューとして年々魅力が高まっている仙台国際ハーフマラソンの出走権などが考えられる。当局の所見</p>	1	0	2	3
4	<p>スポーツ振興について</p> <p>(全国各地のリレーマラソン大会でチームワークかつ実力のあるチームを招待し、本市を会場にリレーマラソン全国大会を企画し、大会名を例えば社の都リレーマラソン全国大会と称し、実施してはと考える。これまでの大会とは別な日程で開催し、既存の大会と同じ仙台市陸上競技場もしくは来年度完成供用開始予定の蒲生海岸公園を会場としてはいかがか。市長の所見)</p>	1	0	2	3
		4	0	6	10

【コメント】

1 ①⇒
事前に調べて質問する必要がある

3, 4 ⇒
具体的提案を伴った質問

第5日目 (2016.12.14)

2 鎌田城行

NO.	質問	①事前・ 現場調査 (0~4点)	②他都市 との比較 (0~2点)	③改善案 (0~3点)	合計
1	<p>学生の就学後の支援とひとり親家庭への支援について</p> <p>①就学後の奨学金の返還等に係る支援の創設について (地元に戻ってきた新社会人の奨学金返還を応援する事業を今年度からスタートさせた宇佐市に倣って新事業を展開することもあってしかるべき。所見)</p> <p>②ひとり親家庭への支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法施行以前に妻を亡くした父子家庭も対象にするべき。未成年を養育しかつ児童扶養手当の対象者に対して市独自の経済支援の創設を検討すべき ・非婚のひとり親家庭への支援強化について ・今後の新たな事業が展開される際には、くれぐれも寡婦控除のみなし適用を怠らぬよう点検し、非婚のひとり親家庭への支援強化に努めるべき ・今後事あるごとに国に対して改正を強く求めるべき 	2	1	3	6
2	<p>誰もが暮らしやすいまちづくりについて</p> <p>①本年四月に施行された、仙台市障害を理由とする差別をなくし障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例についての、条例施行後の実情と課題について (この八カ月余りを通して、特に情報の保障や合理的配慮等への取り組みと今後の課題対応)</p> <p>②バリアフリーの促進について (トイレの洋式化や歩道の平坦化、駐車スペースの十分な確保など、一層の改善を求める声が高まってきている。こうした市民の御要望に真摯に耳を傾けて、利用頻度の高い箇所から改善に着手すべき)</p> <p>③公共交通の整備と移動手段の保障について (免許証を失った方への移動手段の保障等、高齢者の社会参加や生きがい考えたとき、周囲の理解と協力が求められ、コミュニティバスやデマンドタクシーなどの整備が待たれている。今後の整備状況について所見)</p> <p>④差別解消法条例に関し、そもそもこの障害というのはどういうことをイメージするのか、共通認識しなければいけない。差別とは何か。偏見とは何か。このあたりについて、皆さんがわかりやすく確認をひとつさせていただければ(追加)</p> <p>⑤ほかの自治体で暮らしてらっしゃる方が本市に来たとき、また新たに障害をお持ちになった場合のサービスのあり方といったところの身近なところの問題として浮かび上がってくるのが、例えば日常生活用具。こういったことに対する対応も、実は速やかに行われるべき、時間がかかり過ぎてはいけない。このあたりは取り組みの姿勢が問われている(追加)</p> <p>⑥勾当台公園の市民広場のところのトイレ、外から見ればしっかり清掃されていて、使いやすいかなというふうに思う一方で、お年寄りの年配の女性の方から洋式トイレがここにあるべきとの指摘をいただいている。公園全体としても整備を進めるべき。特に中心拠点となるべきところの施設の周辺は改善を急ぐべき(追加)</p> <p>⑦コンビニなんかよく隣の車との間を二つのラインで少し余裕を持たせて示しており、公共施設、仙台市の場合どうしても一つのラインで示しているところが多い。できれば民間に倣って公共施設の整備というものがあってしかるべき(追加)</p> <p>⑧パーキングパーミットは残念ながら、宮城県、仙台市ではいまだ進められていない。今後どのように取り扱おうとしているのか(追加)</p> <p>⑨仙台駅西口のペDESTリアンデッキの課題 (今までの案内表示に加え、路面に表示することなども含めて、さらなる工夫が必要である)(追加)</p> <p>⑩障害を検知して自動でブレーキがきいたりする、安全性能を高めた自動車が高齢者や障害者にもより早くしっかりと普及されるべき。市がこの補助制度を創設するのはなかなか難しい話だが、国としてそういう取り組みが急がれるよう、意見として本市から上申するという事はあってよからうと思う。いかがか(追加)</p>	2	1	3	6

<p>⑪アクセルとブレーキを一体化することによって、踏み間違いの事故を防ぐワンペダルというのがある。事故を防ぐ安全技術は日進月歩。こうした事例を調査、研究をし、本市でも市民への普及を検討していく、何か施策として取り組むことも有効ではないか（追加）</p> <p>⑫自動車から電動車椅子、シニアカーなどへの乗りかえに伴う事故の防止のために出前講座などを使って、利用に際しての安全教室などを行っていくようなことも含めて、市民への安全の高まりということを求めていきたいと思うが、いかがか（追加）</p> <p>⑬敬老乗車証などのパスを初めて使う人の身になって、デビューの際の支援というものに力を注ぐことも願いたい（追加）</p> <p>⑭乗り合いタクシーについてのタクシー業界との協議はどのようになっているか（追加）</p> <p>⑮栃木県のタクシー協会では、免許証を返納した方、免許証を所持していたその履歴のカードを警察のほうから発行してもらった場合、それを提示するとタクシー料金を一割引きにすると、そういうことが既に行われている。我が宮城県のタクシー協会なんかも、こういったことにアクションを起こしていただければいいと思うが、このあたり協力を求めるということもあってどうかと思うが、いかがか（追加）</p> <p>⑯運転免許を返納した方を初め、公共交通にもなかなか遭遇することができなかった方々に対して市内の公共交通網の充実が急がれる（追加）</p>				
	4	2	6	12

【コメント】	
<p>1, 2⇒ いずれも問題点を深掘りし、具体的提案を伴った質問</p>	

第5日目 (2016.12.14)

3 花木則彰

NO.	質問	①事前・ 現場調査 (0~4点)	②他都市 との比較 (0~2点)	③改善案 (0~3点)	合計
1	<p>復興についての市長の姿勢について</p> <p>①奥山市長が昨年度一度も仮設住宅や復興公営住宅を訪ねることもなく、復興計画期間を終了させたことが明らかになった。大きな問題。市長の説明を求め</p> <p>②今年度は復興公営住宅やいまだ住宅再建に至っていない方々のところへ、声をどのくらい聞きに行ったのか</p> <p>③(被災者の声を聞くということは)市民に一番身近な行政、自治体の長として、基本的なこと。全く改まっていない。市民や被災者の声は聞かないという信念や信条が、市長にはおありなのか(追加)</p> <p>④これまで市長は、お困りの方は御相談くださいと言ってきましたけれども、相談に来て、市が何らかの支援で解決された被災者はどのくらいいたのか(追加)</p> <p>⑤特別家賃低減制度の問題(六年目から家賃が上がることについて伝えていなかった問題)について、市長は申しわけないという思いはないのか。個別に相談をして済む問題ではない。国に十年までの費用負担を求めるとともに、市独自の低減策の上乗せで水準を維持すべき(追加)</p> <p>⑥大変薄い支援のために、困難を打開できない被災者がまだたくさん残っているということに、市長は責任を感じて手だてを尽くすべき。どこがトップランナーなのかと。現状に向き合っていたきたい(追加)</p>	1	0	2	3
2	<p>保育待機児童解消について</p> <p>①認可保育所を希望したが入れなかった児童の数は本年度も約一千人であり、事態は前進していない。市長はどうやって来年度当初の待機児童解消を実現しようとしているのか、あるいは数年おくても待機児童解消を実現する方針を考えているのか</p> <p>②保育士の待遇改善が社会的要請となっているのに、市長の考えは、専門職である保育士を安く働かせるのをよしとするもので、逆行している。市長自身はお気づきにならないのか(追加)</p>	1	0	2	3
3	<p>仙台市の公共交通政策について</p> <p>①高齢になってもマイカーに依存しなければならない事態を解決するための仙台市の公共交通政策について、市長のお考え</p> <p>②多くの自治体で何とか住民の足を守ろうと、コミュニティバスなどの努力が行われていますが、大事なのは自治体の責任で走らせること。交通事業者任せにしているんじゃないかと、自治体が自分たちの責任として行うということが大事(追加)</p> <p>③昨年度、日本共産党市議団が行ったアンケート調査では、ふだん地下鉄東西線を利用する人は一六・七%。東西線には毎年四十億円の基金積み立てを行い、支えていくことになる。一方で、市バスと宮交を合わせたバス利用者は九六・四%と圧倒的。公共交通に市民の生活の足の確保にお金をかけることを惜しんでいては、市民の生活が壊れる、地域が壊れるとお考えにはならないのか(追加)</p> <p>④市長は事業者とともに市民の要望を聞き、解決策を検討し実施する、その責任を果たすべき(追加)</p>	1	0	2	3
4	<p>学生や若者を支援する施策</p> <p>①学ぶことも働くことも、結婚や子育てなど暮らしていくことも、大変生きづらさを感じている現状について、市長はどう捉えているのか</p> <p>②学生や若者の実情を把握して積極的な施策を打つためにも、若者が気軽に相談でき、市も要望やアイデアを聞くことができる窓口や担当部署を設置すべき(追加)</p>	2	1	2	5

	<p>③部局ごとではなくて、やはり市として統一したものが必要。学生の学費や、あるいは生活費を支えることが求められている。仙台市交通局の学都仙台フリーパスは、バスだけなら一月五千二百四十円で乗り放題、学生や高校生は大いに助かっている。しかし、市営バス、地下鉄しか使えないため、宮城交通などほかのバス、JR利用の学生には支援とならない。敬老乗車証のように、仙台市の施策として行われていないことが矛盾の原因。交通局の努力で効果は試され済みの施策であるから、学生支援として教育局の制度としてつくり変え、ほかの交通事業者にも取り組んでもらうべき（追加）</p> <p>④新宿区で単身者に月一万円、子育て世帯に月三万円を家賃補助しているのを初め、二〇〇九年の国の調査では、七十五自治体の家賃補助を実施している。家賃補助や学生向けの寮を市営住宅としてつくるなど、検討してはかがか（追加）</p> <p>⑤給付型の奨学金を政令市の中では十の政令市が持っている。北九州では市内就職の青年の奨学金返済を肩がわりするという制度をつくると、市長が先ほど表明をしていた。いつまで仙台市は、国が、県がと言っているのか。市長が決断するべきときではないか（追加）</p>				
5	<p>福島第一原発事故で県内にまき散らされた放射性物質の大半を仙台市に持ち込み焼却し、富谷市にある仙台市の石積処分場に埋めることについて</p> <p>①県知事の提案に即刻反対を表明すべき</p> <p>②自治体で処理し切れないのに、八千ベクレル以下は自治体の責任だとした原子力災害対策特別措置法にこそ、問題がある。その上、八千ベクレル以下の廃棄物がない自治体にまで処理させることは、誤りに誤りを重ねる対応。市長がみずからの判断の理由を示し、正すべきことは正すということが大切</p> <p>③特措法の枠組みでは、国と東電の責任が曖昧にされる。市民の命と安全は守れない。いかがか（追加）</p> <p>④この問題は、二つの論点がある。一つは、安全に焼却し埋めることができるのかという問題。もう一つは、県内の放射性物質を仙台市に集めてくることをよしとするのかどうか。仙台市は、去年五百二十トンの放射性汚染廃棄物を三つの清掃工場で焼却をし、富谷市内の石積最終処分場に埋めてしまった。大気中への拡散、運搬時の問題、埋めてしまっただけでは放流水に出ても対処のしようがないことなど、具体的な市民の指摘に対して、市は国の言うとおりで安全だと言うばかりだったではないか（追加）</p> <p>⑤国の言うとおりにやっていたら、もし何らかの被害が出ても自分の責任にならない。自分は安全だということだったのかとを感じるが、いかがですか（追加）</p> <p>⑥国の言うとおりのガイドラインでは、全く安全性は確認できない。国の言うとおりの方法で試験焼却などやっても、何の役にも立たないことは明らか。県や国にこういった疑問点について責任ある説明を求めたのか、伺う（追加）</p> <p>⑦放射性セシウムは焼却しても化学変化でもなくならない、減らないということは理解しているのか。市長に伺う（追加）</p> <p>⑧安全に焼却できたとしても、廃棄物に含まれていた放射性物質は、焼却灰の中に全て残ることになる。一般のごみと混ぜて燃やすわけであるから、混ぜるための一般のごみが圧倒的に多い仙台市に処理が集中する。市長は、八千ベクレル以下の廃棄物、三万六千トンのうち仙台市にはどのくらい集まってくると想定されているか（追加）</p> <p>⑨三万六千トンの中に含まれている放射性セシウムの量は、県内の八千ベクレル以上の指定廃棄物に含まれている量よりも多いという事実を、市長は御存じか（追加）</p> <p>⑩現在の市民も、百年、二百年後の市民にも影響を与える重い決断のはず。奥山市長は、それをこんなにも軽々しく行おうとしているのか、伺う（追加）</p> <p>⑪放射性セシウムによる汚染廃棄物は、八千ベクレルを超えるものであっても、放射線が出てこないようにコンクリートなどで遮蔽することは比較的簡単。あとは水が入り込み、流れないように、五十年、百年と管理することが放射線防護管理の基本。全県の廃棄物を集めたりせず、燃やしたりもせず、自治体ごとに管理施設を人が日常見るところに国の責任でつくり、そのための人の配置も行わせることが現実的。市長はそう考えないか（追加）</p> <p>⑫国の責任でちゃんと市町村ごとにやらせるということだと思う。百万市民の命と暮らしを守るためには、市民の立場にしっかりと立って、国にも立ち向かうことが市長であるべき。市長が任期最後の半年余りを、これまでの政治姿勢を猛省をして、提案したような市民のための施策へ方向転換を行い、実行されることを再度求める（追加）</p>	2	0	3	5

	7	1	11	19
--	---	---	----	----

【コメント】

1, 3, 4, 5⇒
問題点を鋭く突いた質問

3②⇒
「自治体の責任で走らせること」と「公営民間を含めた交通事業者に任せること」とのプラス・マイナスは、総合的に検討する必要があるのではないか。

第5日目 (2016.12.14)

4 石川建治

NO.	質問	①事前・ 現場調査 (0~4点)	②他都市 との比較 (0~2点)	③改善案 (0~3点)	合計
1	<p>化学物質過敏症対策について</p> <p>①化学物質過敏症に対する当局の認識 ②本市としては一四年度に、教育委員会が児童生徒や教職員、保護者向けに、化学物質過敏症の理解のためとするチラシを作成し配布しているが、これ以上の取り組みは確認できていない。全国的に対策がおくれている中で、教育局がチラシ作成に至ったのはなぜか、その理由と目的について伺う ③本市として、患者数などの現状把握や相談窓口の開設、啓発ポスターの掲示や本市サイトへの掲載等を使った広報や啓発、公の施設など大勢の人が集まる場での香料の自粛や、周囲の方への配慮を求める取り組みなどを行うよう求める。所見 ④化学物質の使用削減や香料の自粛ガイドラインの作成、医療機関や専門医の育成拡大など、国に対して働きかけを行うことも重要。所見</p>	1	1	2	4
2	<p>J Rで使用している有害物質の対策等について</p> <p>①J Rが車輪の空転や滑走防止のために用いる砂まき装置に使用している珪砂について、リスクアセスメントを行った結果、珪砂が発がん性の有害物質であることが確認された ②市として、J Rに対し、調査結果とこれまでとこれからの対応などの事実確認をすべきではない ③今回のリスクアセスメントで明らかになったことを踏まえ、J Rに対し珪砂の使用中止と、人体等に影響のない材料を使用するよう求めるべき。所見</p>	1	0	1	2
3	<p>中学校の指定変更許可区域の見直しに伴う対応、とりわけ児童生徒や保護者、地域との合意形成のあり方について</p> <p>①この三年間の教育局の取り組みや対応に、保護者の方々から疑問が寄せられた。一つは、三年後に再度協議を行うとしていたが、対象となる三地区での説明会等は開催されずに、指定変更許可区域が来年度から廃止との決定がされたこと。二点目は、登下校の安全性の確保等は進んでいない。三点目が、魅力ある学校づくりの成果が見えない、など。その後二回の懇談会を開催し、課題の解決と相互の理解を深める努力を積み上げてきた。しかし教育局への不信と子供の教育環境等への不安を払拭し切れずとも言えない。今後どのように取り組んでいくのか ②本市でも加速される少子化などを背景として、学校の存続や統廃合、学区の見直しなどが想定される中、児童生徒や保護者、住民などとの合意形成を円滑に図ることが求められていくのではないかと。事を進める側が、対象となる方々の思いを酌み最善を尽くす中で、信頼関係を築く努力を怠ってはいけない。子供や保護者、住民の間に不協和音を生じさせるような姿勢は厳に慎み、今後の事業に取り組まれるよう強く求める。教育長の所見と決意</p>	2	0	2	4
		4	1	5	10

【コメント】

3 ⇒
現場に足を運び、現場の問題点を浮き彫りにした質問

第5日目 (2016.12.14)

5 わたなべ拓

NO.	質問	①事前・ 現場調査 (0~4点)	②他都市 との比較 (0~2点)	③改善案 (0~3点)	合計
1	<p>歴史テーマにちなんで、(仮称)青葉山公園センター整備について</p> <p>①この場所の藩政時代などの重層的な歴史、歴史的風情と調和したデザインとすべきことは言うをまたない。センターの設計に際しては、追廻地区の歴史的な意味を踏まえ、インバウンドの観点を重視した外観にしようとの意見にも、十分に留意していただきたい</p> <p>②設計のプロセスをオープンにするなど、建築家の創意を尊重しつつも、多様な意見を柔軟に反映する仕組みが必須と考える。当局の所見</p> <p>③栗原市栗駒総合支所の例も十分に参考にしながら、公園センターの設計仕様書などに木造化の観点も反映していただきたい。当局の所見</p> <p>④仙台城大手門復元について (大手門復元整備事業の前提を成す迂回路の設定につき、既に実績のある当該経路を刎上に上げ、東北大学、周辺住民、宮城県護国神社など関係諸団体と検討を開始し、復元事業を一步でも前進させるときではないか。当局の所見)</p> <p>⑤現実的に設定可能な迂回路として恐らく私が今回この議場において御提案させていただいたところが最有力。少なくともその迂回路の論点に関しましては、これで大きく一つ進められる余地もあるのではないかと(追加)</p>	1	0	2	3
2	<p>仙台市ジュニアリーダーについて</p> <p>①幾らボランティアだといってもジュニアリーダーは中高生であり、経済的基盤が確立しているわけではなく、経済的負担までお願いするのは不適切。交通費実費相当額を填補してあげるのが適切であると考えます。</p> <p>②全ての参加者に対してでなくとも、せめて遠隔地在住のジュニアリーダーに対しては、交通費の一定割合を填補するなど、一定の配慮が必要。当局の所見</p>	2	0	2	4
3	<p>嘱託社会教育主事について</p> <p>①主として学校管理職を対象として、学校現場にさらなる負担を課さない形での、嘱託社会教育主事の役割に関する認識を深めるための仕組みが求められると考える。当局の所見</p> <p>②教育委員会における社会教育主事有資格者の数、職員に占める割合</p>	1	0	1	2
4	<p>病院における暴走車対策について</p> <p>①長町所在の本市立病院の正面玄関前の歩行者用通路に設置されている石製の車どめはどの程度の衝撃に耐えられるよう設計されているのか</p> <p>②既存の車どめを残置するのであれば、それらの間にさらに十分な高さや強度の車どめを増設すること、さらには駐車場から病院外部への車両誘導経路の変更など、暴走車両の病院突入防止策を講じる必要がある。当局の所見</p>	2	0	2	4
5	<p>通学路の交通安全の確保について</p> <p>①本市所管内に残る危険箇所は何カ所あるのか。対策未了の事由につき伺う</p> <p>②平成二十四年度文部科学省交通安全業務計画には、スクールゾーンの設定の推進とその定着化が挙げられているが、本市における実施状況</p> <p>③いわゆるPDCAサイクルによる効果検証と、さらなる改善の取り組みは極めて重要。本市における取り組みの実施状況、実績について伺う</p> <p>④PDCAという観点から、既に対策済みとされているにもかかわらず、危険の顕在化が危ぶまれるような箇所が散見される。四年というサイクルにこだわらずに迅速にPDCA、効果検証、そしてそれに基づく対策を進めていくべき(追加)</p>	1	0	2	3
6	<p>介護の担い手確保策について (本市独自の取り組みの余地はまだあると考えるが、当局の所見)</p>	1	0	1	2

7	<p>高病原性鳥インフルエンザ対応について</p> <p>①十一月二十一日に登米市で回収されたマガンの死亡個体一羽が、十一月二十九日に高病原性鳥インフルエンザウイルスと判明した件について、当初は、内部的な分掌の関係から、健康福祉局のホームページにリンクしていたということである。危機に際しては、誰もが目にするであろう仙台市ホームページ一面の新着情報と、防災・緊急情報に直ちに注意喚起情報をリンクさせるべき。当局の所見</p> <p>②十二月十日付で環境省広報室より、宮城県においては鳥の大量死は見当たらないとの調査結果が発表されたが、こうした安心材料についても速報することで市民の皆様にご安心いただくべき。当局の所見。オオハクチョウの発見場所は、隣接する本市宮城野区から北方一キロメートルほどに所在し、半径十キロメートル以内には本市泉区、宮城野区、若林区の三区が含まれる地点。危機管理レベルを三へと引き上げて対応すべきだったようにも思いますが、いかがか</p> <p>③今回判明した課題を踏まえ、今後の危機管理対応に係る要改善点につき、当局の所見</p>	2	0	2	4
8	<p>国家戦略特区を活用し、市内で創業する外国人を対象に在留資格の取得要件を緩和する、いわゆるスタートアップビザ事業について</p> <p>①本市においても、対象事業の選定に当たっては、仙台市の都市ブランド、そして固有の課題との整合性を慎重に見きわめ、そもそも一体何のための外国人優遇なのか、それがいかに具体的に仙台市民にメリットをもたらし得るのか、その趣旨、目的を定義し、丁寧に説明する必要がある。当局の所見</p> <p>②創業活動確認について (仮にも税金を使った事業であることを重く自覚するのであれば、税金を使った単なる足長おじさんの事業に出すのは戒めるべき。事業の趣旨、態様のチェックに際しては、事業により市民にメリットを提供できるのか否かを重視し、端的に外国人の自己実現に資するのみとならぬよう留意する必要がある。当局の所見)</p> <p>③本制度による外国人在留資格緩和と、国民健康保険制度の関連について (国民健康保険の事例に見られるような悪意のフリーライド抑止の観点も踏まえた総合的な活動チェックと、それを可能とする内外の他局間連携が求められる。当局の所見)</p>	2	1	2	5
		12	1	14	27

【コメント】	
<p>1, 2, 4, 5, 7, 8⇒ 具体的改善案を伴った質問</p> <p>3②, 5①⇒ 事前に調べて質問する必要がある</p>	

第5日目 (2016.12.14)

6 佐藤わか子

NO.	質問	①事前・ 現場調査 (0~4点)	②他都市 との比較 (0~2点)	③改善案 (0~3点)	合計
1	<p>十二月六日で地下鉄東西線が開業から一年を迎えたことについて</p> <p>①当初の需要予測をかなり下回っていて、利用者が六割にとどまっている点に関する当局の認識と、今後の需要予測の見通し</p> <p>②需要予測が下回った原因の分析と乗客増につながる利用促進策を稲葉副市長が座長の庁内の連絡組織で早急に検討すべき。稲葉副市長の見解</p> <p>③東西線の駅の周辺の魅力アップを図ることも、乗客増につながる。歩いて楽しめる青葉山一帯というコンセプトのもと、自然散策ルートや少し上級者向けのトレッキングコースなどを戦略的に整備して、東西線の利用につなげるべき。所見</p> <p>④そのルートの一つとして、青葉山駅と八木山動物公園駅を結ぶルートも、魅力的なウォーキングコースとして検討されるべき。ルートの途中にある東西線の竜の口橋梁の道路の部分についてどうしたら通ることができるのか組織横断で検討されるべき。所見</p>	1	0	2	3
2	<p>小学校の英語教育について</p> <p>①三年後に迫った（小学校高学年での英語教科化の）小学校の英語教育の体制を、仙台市としてどのように受けとめていて、どのような対策を立てていくつもりなのか、現状認識と今後の方向性</p> <p>②小学校に専任のALTを段階的にふやしていく前に、まず今までのALTが仙台市の英語教育にどのような役割を担ってきたのか、そのメリットとデメリット及びその効果をしっかり検証してから、小学校を含めた今後のALTの活用につなげていくべき。ALTの事業検証の実施についての当局の所見</p> <p>③市西部の小規模校に対する特色のある教育に対しての所見。また、市内の小規模校に対する今後の方向性についての見解</p>	1	1	2	4
3	<p>仙台市のいじめ対策について</p> <p>①自死から二年たっている館中の校長先生や、その当時の担任の先生の責任について、教育委員会はどのように対応しているのか。今現在の対応</p> <p>②この事案は、現在公判中ではあるが、公表まで一年もかかってしまったことや、自死した児童が転校したと報告したこと、担任が保護者に連絡しないで加害児童と被害児童を呼び謝罪の会を実施したことなどは、裁判の結果をまつまでもなく、教育委員会としての決断が求められている。当局の見解</p> <p>③今年度から、全ての中学校にいじめ担当の専任教諭を配置した。この事業の検証と効果</p> <p>④いじめ担当専任教諭は、どのようにして情報を集めているのか、現状の取り組みについて</p> <p>⑤いじめ専用ダイヤル及びいじめ専用メールも設置されたが、利用状況。その件数</p> <p>⑥せっかくいじめ担当の専任教諭を全中学校に配置したわけであるから、各学校にいじめ専用のメールアドレスをそれぞれ作り、担当の専任教諭が窓口になり、どんな小さないじめ情報もキャッチできる仕組みをつくることを提案する。所見</p> <p>⑦子供たちの感想として、クラスが明るくなった、自分の意見が言えるようになったなど、肯定的な意見が多く出されているP4Cに対して、教育局としてどのような見解を持っているか。P4Cは主体的、協働的な学びにつながる。仙台市も効果の検証を行い、白石市のように積極的に全学校に広げるぐらいの意気込みが求められている</p> <p>⑧子供たちの心を育てる情操教育に力を入れていくという観点から、話題になっているいじめをテーマにしたアニメ「聲の形」や、終戦の少し前の広島県呉市を舞台にしたアニメ「この世界の片隅に」のようなアニメの鑑賞を取り入れていただきたい。所見</p> <p>⑨今回の教員の暴言問題も含め、いじめ、不登校が全国でワーストワンに近い現状を重く受けとめ、少しでも効果があると認識しているなら、学級編制の権限が仙台市に移管される次年度に、三十五人以下学級に思い切っかじをとる勇気も必要。この点に関する市長の見解</p>	2	1	3	6

<p>⑩三十五人以下学級を一遍に全部やるといったら、それは多額の整備費用もかかるが、とりあえず三年生だけでもやってみようということであれば可能ではないか（追加）</p> <p>⑪裁判が終わるまではそのままずっと何も検討しないで、ずっといくということか。裁判が終わるまでは判断ができないという意味なのか（追加）</p>				
	4	2	7	13

【コメント】
<p>1 ③④, 2 ③, 3 ⑥⑦⑧⑨⇒ 具体的提案を伴った質問</p> <p>3 ④⑤⇒ 事前に調べて質問する必要がある</p>

第5日目 (2016.12.14)

7 鈴木広康

NO.	質問	①事前・ 現場調査 (0~4点)	②他都市 との比較 (0~2点)	③改善案 (0~3点)	合計
1	<p>本市の特別支援教育について</p> <p>①鶴谷特別支援学校は小学部から高等部までの一貫性ある教育ができる仕組みになっている。一貫した教育体系の中で学ぶことによる、児童生徒にとって何がよい影響として反映しているのか</p> <p>②特別支援学級から鶴谷特別支援学校に転校してきた際、戸惑いや児童生徒にとっての影響はどのようなことがあるのか</p> <p>③自立と社会参加に向けた取り組みを特別支援学級ではどのように行っているのか</p> <p>④特別支援学校と特別支援学級では、児童生徒、保護者へ伝わる情報量は明らかに違う。この情報量の違いをどのように理解しているのか。また、子供が自立するためのさまざまな制度等についての情報提供は、特別支援学級へ通う保護者にはどのように行われているのか</p> <p>⑤本市の発達障害のある児童生徒の状況はどのようになっている、どのように分析されているのか</p> <p>⑥情報や知識を見たり聞いたりした親が、自分の子供のことについて、ちょっと違う、個性があり過ぎるなどと気づきを持ってもらうことが大事。この点について、教育長の所見。早い段階で保護者に気づいてもらうことが大事。取り組んできたことの中での課題は何か</p> <p>⑦今後は、本市の鶴谷特別支援学校等と連携しながら、保護者が気軽に参加できるセミナー等を開催してはいかがか</p>	0	0	1	1
2	<p>小さな赤ちゃんの対応について</p> <p>①本市における新生児の分類はどのようになっているのか</p> <p>②二千五百グラム未満の低出生体重児、千五百グラム未満の極低出生体重児、千グラム未満の超低出生体重児は、本市でどのような出生状況になっているのか</p> <p>③本市においても母子健康手帳とは別に、低出生体重児対応の小さな赤ちゃん手帳を、NICU、GCUを有する市立病院や、子育てサークルなどのNPO団体の協力を得ながら作成し、配付してはいかがか、当局の所見</p>	1	1	1	3
3	<p>貸し付け型のAEDについて</p> <p>①これまで設置されていた自動販売機及びAEDが撤去になることは、市民にとっては不安。早急の対応を考えるべき</p> <p>②現在はAEDのレンタル業も増加している。AEDが撤去された施設には、今後AEDがレンタルできるようにするか、常設できる対応を本市が配慮すべき。市長の所見</p>	2	0	1	3
4	<p>本市の鳥獣被害防止対策と鳥獣活用について</p> <p>①近年の本市における農作物被害額はどのようになっているのか</p> <p>②これまで把握している、ことし一年間の熊による被害はどのようになっているのか</p> <p>③本市の鳥獣被害の対象鳥獣であるイノシシの毎年の捕獲計画は五百頭。この個体を流通業者とも連携しながら、ジビエとして活用できるよう今後計画的に取り組むを進めてはいかがか</p> <p>④ことしのツキノワグマ被害増加を受け、熊の捕獲計画も立てるべき。所見</p>	1	0	1	2
		4	1	4	9

【コメント】

1 ①②③④⑤, 2 ①②, 4 ①②⇒
現場に行くか担当職員に確認し, 問題点を把握して質問すべき

3 ⇒
事前調査を踏まえた質問

第6日目 (2016. 12. 15)

1 菅原正和

NO.	質問	①事前・ 現場調査 (0~4点)	②他都市 との比較 (0~2点)	③改善案 (0~3点)	合計
1	<p>せんだい・アート・ノード・プロジェクトを関連づけたせんだいリノベーションまちづくりについて</p> <p>①本市中心部における遊休不動産に関する不動産オーナーの認識とせんだいリノベーションまちづくりの役割についてどう捉えているのか、所見</p> <p>②リノベーションまちづくりの今年度のこれまでの公民連携の取り組みの現状とそこから見えた課題について</p> <p>③人材育成のために今後どのような取り組み方針でいくのか</p> <p>④若い世代の育成、活躍の場の創出といった点で、これらを含む今年度始まったアート・ノード・プロジェクトの取り組みについてどのように考えているのか</p> <p>⑤公民連携、市民協働というキーワードで共通するこれらアートとリノベーションまちづくりが連携していくことで、若い世代の活躍の場を広げ、人材の育成を図るとともに、さらに人々の関心を招き、まちのにぎわい創出につながる。市長の所見</p>	1	1	1	3
2	<p>スポーツと観光について</p> <p>①平成二十六年十二月に設立されたスポーツコミッションせんだいは設立以来これまでどのような取り組みをしてきたのか</p> <p>②本市のスポーツコミッションでも他都市にはない魅力ある取り組みを行うべき。本市独自の取り組みはどのようなものがあるのか、さらに今後の取り組みに対しても所見</p> <p>③スポーツを通じて海外からお客様を積極的に呼び込むことは非常に大事。仙台国際ハーフマラソン大会に台湾選手枠を設けるのはどうか</p> <p>④見るスポーツの商品化、ハーフマラソン等のボランティア協力、ふだん味わうことができない体験はスポーツの観光商品化として最適。文化観光局として今後どのような取り組み方針であるのか</p>	1	1	1	3
3	<p>バスの路線再編について</p> <p>①バスは高齢者にとってなくてはならない大切な足。アンケートの回答の中には、運行経路の変更や増便、地下鉄との接続の改善などさまざまな要望が含まれている。こうした声をどのように受けとめているのか、所見</p> <p>②今回実施したアンケートでは、路線再編以前の経路、すなわち東西線結線駅を経由せずに、JR仙台駅前や東北大学病院方面へ直行する便の復活を望む声が最も多かった。地元の生の声として寄せられた要望には切実なものがある。所見</p>	1	0	1	2
		3	2	3	8

【コメント】

1 ①②⇒
リノベーションまちづくりの活動を質問者が調査し、そこから見えてきた課題について質問する必要がある

2 ①②⇒
事前に調査して質問する必要がある

第6日目 (2016. 12. 15)

2 岡本あき子

NO.	質問	①事前・ 現場調査 (0~4点)	②他都市 との比較 (0~2点)	③改善案 (0~3点)	合計
1	<p>復興五輪の発信とイタリアホストタウンの盛り上げについて</p> <p>①ホストタウン事業の取り組み状況。サッカーはもちろんのこと、イタリアの国際大会レベルのあらゆる競技種目についてもアプローチを強化し、結果、イタリアのチームや選手が仙台を訪れ、市民やジュニアアスリートと交流を図る。また、事前キャンプ地に仙台を選んでいただける成果をかち取れるよう改めて決意を伺う。</p> <p>②復興五輪の復興がまさに名前のおり実を伴う成果となるよう、東北、宮城の被災地を代表して発信の必要がある。本市も積極的に提言をしてはと考える。これはそれこそトップのやる気ではないか。</p>	1	0	1	2
2	<p>災害時の権限移譲と防災について</p> <p>①政令市がみずからできることをし、県とも協力することによって、いざというときに機動的であり効果的であること、結果としては早期の救済、復旧に寄与するということを明確にし、実現することを求める。災害復興特命担当市長としての所見</p> <p>②避難所の燃料備蓄について (道路の寸断やガスを補充する人員の確保、タンク不足への対応など、現在の協定だけでは限界がある。その場で使えることを可能とする備蓄のあり方を検討されてはいいか)</p> <p>③国でも、補助事業としてプロパンガスの備蓄というのが明記をされて補助事業が始まっている。川崎市、岐阜市、滋賀県の野洲市などもスタートしている。大きいポンペを常備するということが、先ほど道路寸断だとかそういう供給のふぐあいを解決するためにもやはり必要。さらにもう一歩進んでいただきたい (追加)</p> <p>④東日本大震災の経験を通じて、県が言う不公平が生じるという言葉の意味、非常に疑念を抱いている。知事会が主張する公平・不公平という言葉を当局としてはどう受けとめているのか (追加)</p> <p>⑤仙台市だけでなく、熊本市、神戸市、過去の経験も今回の熊本の経験も踏まえて、法改正検討を今後協議されるということであるので、具体的な事例を提示して客観的な判断を求めたい。今後その協議の場はどういうふうに進むのか (追加)</p> <p>⑥市長みずから知事に強く申し入れ、被災者にとってどうあるべきか、被災者の視点でということを揺るがすことなく主張していただきたい。実現に向けての決意 (追加)</p> <p>⑦出るべき場ではきちんと仙台市の主張をしていただきたい。市長から村井知事へ強く申し入れということも並行して行っていただきたい (追加)</p>	2	2	3	7
3	<p>子供政策について</p> <p>①子供の貧困 (本市としても、子供未来局だけではなく、全庁的な取り組みへの仕組みも必要ではないか。市長御自身いかがお考えか)</p> <p>②中学校卒業後に若年者が順調なのかつまりいていないのか、困ったときに信頼できる大人がそばにいないのかなどのフォローは本市でも必要。まずは足立区のように高校との情報交換の場の設置から始めてはどうか</p> <p>③子供の貧困対策は教育局との連携が欠かせない。学習習慣や生活習慣との相関や、健康格差が貧困にもつながるおそれがある。予防や深刻にならないための段階で、健康診断や歯科健診で要注意な児童生徒、生活習慣が身につけていないお子さん、不登校の状況など、日常的な目配りのためのソーシャルワーカーへの情報提供、区役所や子供未来局との一層の連携促進を求める</p> <p>④いじめ対策について (一昨年の自死事件から一年の間公表を伏せていた、そのことによって全市でのいじめ対策、再発防止に影響したということはないか) (少しでも早く全市での対応が始まっていたら、本年二月に自死した中学生の不安に未然に少しでも寄り添えることができたのではないかと思います。市長自身どう受けとめているのか)</p>	2	1	3	6

<p>⑤実態調査で全庁的な課題、次々出てくると思う。そのときには全庁的な体制も検討するという意味か（追加）</p> <p>⑥いじめ加害の当事者に教職員を初めとする大人も対象とするなど、本市なりの独自の対象にする工夫はなされないのか（追加）</p> <p>⑦当該教職員が児童生徒に対して、また児童生徒全員に対して謝罪をするということはあるのか。過去に、問題が起きると、当該教職員が心身の不調の診断を受けて、そのまま学校を休んで児童生徒の前に姿をあらわさないという話を聞いたことがある。今どきはこのようなことはないと言断してよいか（追加）</p> <p>⑧本年二月の事件における答申の方向性が報道されているが、いじめに関係する者の特定は難しいというようなことだが、誰の責任でもないということにならないか。原因究明がなされずに、果たして再発防止策を構築できるものなのか、教育局の考え（追加）</p> <p>⑨教育局は教育局として、答申を受けた後、毅然とした再発防止、またそのための原因究明、取り組む姿勢を改めて確認したい（追加）</p> <p>⑩全ての学校で自分の学校でも起こり得ることとして、子供の命、いたずらに心を傷つけることがあってはならないとの自覚を持って取り組みを進めることを望む。改めて今後の取り組みを確認する（追加）</p> <p>⑪子供たちの命を守るという点で、市長としての考えを確認をさせていただきたい（追加）</p>				
	5	3	7	15

【コメント】	
<p>2, 3⇒ 問題点を深く追及した質問</p>	

第6日目 (2016. 12. 15)

3 松本由男

NO.	質問	①事前・ 現場調査 (0~4点)	②他都市 との比較 (0~2点)	③改善案 (0~3点)	合計
1	<p>本市における災害時要援護者支援の取り組みの現状及び行政支援のあり方について</p> <p>①市長部局として、災害時要援護者支援、特に当該情報登録制度について、各区の課題、全体像をどのように把握されているのか。特に要援護者のニーズに沿った支援者が確保されているかどうか、いわゆるマッチングの状況</p> <p>②情報登録リストの作成、管理担当部局の健康福祉局と、これを統括していると思われる危機管理室の役割分担はどのようになっているのか</p> <p>③町内会などの現場への負担を少しでも少なくし、取り組みの効果をさらに高めるためにも、一方通行で終わらせるのではなく、早急に調査し現状を正確に把握し、手だてを講じるべきか否かを判断すべき。常に最新のデータによる管理のための具体策も準備されたいかがか</p>	1	0	1	2
2	<p>本市の空家等対策計画策定の進捗状況及び今後の方向性について</p> <p>①今年度末までに策定予定の仙台市空家等対策計画の進捗状況及び現在までに見えてきた課題、論点</p> <p>②この計画の核となる、特に基本理念、基本方針はどのような内容、項目となっているのか</p> <p>③空き家対策はややもすると対症的視点がのみが重点となりがち。平素から管理不全な空き家を生み出さない予防策、抑制策も重点とすることを提案する。所見</p>	1	0	1	2
3	<p>教育長及び教育委員の市長による人選段階での選考項目の見える化ということについて</p> <p>①本市の今現在の教育委員の平均年齢は六十歳を超えていると認識しているが、このことについてはどのように捉えておられるのか</p> <p>②議員、議会は、法的な枠組み上、人選段階に立ち入れない中であって、同意人事案件という責任があるからこそ、市長段階における人選に当たっての主要項目を文字化して公開するべきではないか。見解</p>	1	0	1	2
4	<p>議会における質疑、質問の後の市長部局の対応状況の見える化について</p> <p>①市長、副市長は、議会における質疑、質問の後の各部局の進捗状況をどのような手段、方法によって把握、管理されているのか。市長、副市長の指針、指示は文字化されているのか否か</p> <p>②提案として、(仮称)対応状況進捗管理表を作成、管理、公開することにはいかがか。本市のように組織が大きくなればなるほど、組織的な情報の共有という意識、仕組みが必要。進捗管理表による見える化によって、職員の業務内容も明確になり、結果として誰にとっても有益になると考えるが、いかがか</p> <p>③検討する、研究する、慎重に判断するなどの市長部局での用語の種類とその定義</p>	0	0	1	1
		3	0	4	7

【コメント】

1 ①②, 2 ①②⇒
事前に調べて質問する必要がある

4 ⇒
進捗状況の確認は議会の責任でもある。議会としてのチェックシステムを検討するべき

第6日目 (2016. 12. 15)

4 橋本啓一

NO.	質問	①事前・ 現場調査 (0~4点)	②他都市 との比較 (0~2点)	③改善案 (0~3点)	合計
1	<p>町内会の活性化の取り組みについて</p> <p>①町内会加入率の減少について、当局ではどのように認識し、今後どう対応していかれるのか</p> <p>②町内会加入率の違いの理由についても、どのように分析をしておられるのか</p> <p>③町内会としてできるだけ行事を簡素化するなど努力している。行政側も手続の簡素化や会議の効率化を考える必要がある。どのように取り組むおつもりなのか</p> <p>④町内会を応援してくれるさまざまな活動主体と連携し、地域全体が活性化するような取り組みを進めていくべき。当局の認識</p>	1	0	1	2
2	<p>松森工場関連市民利用施設、スポパーク松森に関して</p> <p>①PFI事業の事業期間終了に向けて、本市の手続やルール、取り扱いはどうなっているのか</p> <p>②当局では、これまでも施設の運営や維持管理の状況に関し定期的にモニタリングを行っていることと思うが、どのような方法で行い、どのように評価しているのか</p> <p>③民間事業者に運営を委ねることが基本と考えているが事業期間終了後の事業の枠組みや運営主体について、どのように検討を進めていく考えであるのか</p> <p>④隣接する松森資源化センターについて（今後の松森資源化センターの更新に向けて、どのような取り組みを行っていこうと考えているのか）</p>	1	0	1	2
3	<p>救急安心センター、#七一九事業の導入について</p> <p>①今後の救急需要の動向をどのように見込んでいるのか</p> <p>②医療機関における適正な救急車利用等について仙台市救急業務基本問題検討会でさまざまな検討がなされてきた結果について、今後、救急活動にどのように反映されるおつもりなのか</p> <p>③すぐに救急車を呼ぶべきかに迷ったときに、医学的見地から医師や看護師から直接アドバイスを受けられる、いわゆる#七一九という救急電話相談サービス事業に対する当局の所見</p> <p>④今後、宮城県との連携も視野に入れながら、救急車の適正利用を推進し、限りある資源を最大限有効活用するため、救急電話相談サービス事業の導入に向けて早急に検討を行うべき</p>	1	1	2	4
4	<p>中核病院としての役割を担う市立病院について</p> <p>①仙台市歩行喫煙等の防止に関する条例の施行からこれまでどのような広報啓発活動を行ってきたのか、また、その結果として、実際に重点区域における歩きタバコの状況がどのように改善されているのか。今後の取り組み</p> <p>②受動喫煙防止宣言施設登録制度の登録状況</p> <p>③厚生労働省は、少なくとも官公庁や医療施設においては、全面禁煙することが望ましいとしているが、市民の皆様が利用される施設は屋内禁煙にする受動喫煙防止対策は進んでいるのか</p> <p>④仙台市立病院では敷地内での禁煙対応をどのように取り組まれているのか</p> <p>⑤病院の職員は、仕事柄、みずからの健康のことについても十分意識し、率先して禁煙に取り組むべきである。こうしたことにどのように対応されているのか。周辺施設の利用者や通行される方々に迷惑がかからないよう、病院独自の対応策</p>	1	0	1	2

<p>⑥市立病院で禁煙外来を実施する考えがあるのかどうか ⑦市民の死因で大きな割合を占めるがん予防への啓蒙啓発活動をさらに積極的に行うべき。市民の積極的な健康増進に向けた取り組みを市立病院が担うべき ⑧がん治療において仙台市内では四つの病院が拠点病院に位置づけられている。残念ながら市立病院は指定をされていない。市立病院はどのような点が足りないのか ⑨がん診療連携拠点病院についてのこれまでの検討経過、そして今後の取り組み</p>				
	4	1	5	10

【コメント】
<p>1 ①②, 2 ①②, 3 ①, 4 ①②③④⑤⇒ 事前に調べて質問する必要がある</p> <p>1 ③⇒ 提案が抽象的</p> <p>2 ③⇒ P F I のプラスマイナスをスポーツパーク松森をテーマにして質問者が検証して提案するべき</p> <p>3 ③⇒ 具体的提案を伴った質問</p>

第6日目 (2016.12.15)

5 田村稔

NO.	質問	①事前・ 現場調査 (0~4点)	②他都市 との比較 (0~2点)	③改善案 (0~3点)	合計
1	<p>公共交通の使いづらさによる交通弱者問題の重要性を認識させられている観点から、JR東日本と本市との関係について</p> <p>①福田町駅にはエレベーターはなく、ホームも狭いなど、乳幼児を抱える女性や高齢者などからは、利用しにくいや危険な駅であるという悲鳴に近い声が多く寄せられている。みんなにやさしい福田町駅をつくるう会が事業者である東日本旅客鉄道株式会社に利用者の声を届けるために、福田町駅及び駅周辺の改善を求める要望書への署名活動も行った。市民の安心・安全を確保する点から、本市からさらにJR東日本に対して福田町駅の改善に早急に着手するよう強く要請すべき。所見</p> <p>②小鶴新田駅建設費九億五千万円はどこが負担したのか</p> <p>③太子堂駅建設のためにJR東日本はどのくらい負担したのか</p> <p>④JR東日本の企業としての甘えの体質ができて上がっているのではと思わずにはいられない。本市ではいかにお考えか</p> <p>⑤利用しやすい公共交通は、地域創生の課題であると同時に、活力に満ちた日本社会を維持するための課題。いかに取り組まれていられるか</p> <p>⑥当局の担当者がJR東日本と定期的に情報交換をしているということも存じ上げている。なかなか一筋縄ではいかないと思うが、どのような策を練っていかれるのか、公表できる部分があったら教えていただきたい。市民の安心・安全を守るのは行政の最も大切な仕事。どのような具体的な施策があるか、お示しをいただきたい（追加）</p>	2	0	2	4
2	<p>ゆとり教育の見直しによって児童生徒の学力は向上したのかについて</p> <p>①数次にわたる学習指導要領の改訂で一体どのくらい学習内容が薄められたのか</p> <p>②今の学力レベルをはかるには過去の問題を子供たちにやらせてみればよいのではと考えるが、いかがか</p> <p>③第一次安倍内閣の教育再生会議が出した七つの提言と四つの緊急対策という提案は至極当然。現場で実現に向けてどのような取り組みをされておられるのか。教育委員会ではその方向で教育政策を展開しておられるのか</p> <p>④新しい学力がいたら古い学力も上がるというなら問題ないが、ペーパーテストの結果が悪くてもそれでよいというのでは納得がいかない。所見</p> <p>⑤ゆとり教育はいまだに終わっていないと思考する。所見</p> <p>⑥若い人たちの基礎学力の低下は大きな問題になっていて、日本の産業にも大変影響する。教育委員会としてその目標に向かって具体的にこれをしていこうという施策をお示しいただきたい（追加）</p>	1	0	1	2
		3	0	3	6

【コメント】

1①⇒
詳細な現場調査を踏まえた質問

第6日目 (2016. 12. 15)

6 西澤啓文

NO.	質問	①事前・ 現場調査 (0~4点)	②他都市 との比較 (0~2点)	③改善案 (0~3点)	合計
1	<p>動物愛護に関連して、飼い猫、飼い主のいない猫、すなわち地域猫対策について</p> <p>①京都市、神戸市の取り組みも参考にしながら、本市でも飼い主のいない猫に避妊去勢して再び地域に戻す事業を積極的に推進していく必要があると考えるがいかがか</p> <p>②さらに、事業を推進するに当たり、飼い主のいない猫の手術を敬遠する動物病院もあると伺っている。動物管理センターにある手術用設備を市獣医師会と共同でさらに有効活用することも手術頭数を伸ばす有力な方策の一つであるとするが、いかがか</p> <p>③本市も、新たな飼い猫と飼い主のいない猫の適正飼育ガイドラインの作成に取り組んでおられる今だからこそ、より積極的に東京の町田市、八王子市、立川市などのような市民の啓発に取り組むべき</p>	2	2	2	6
2	<p>民間企業と連携した子育て支援策について</p> <p>①本市においても、山形県、秋田県のような隣県での取り組みも参考にしながら、子育てタクシーの普及を積極的に進めることは必要と考えるが、いかがか</p> <p>②行政においては限りある財源やマンパワーでは、子育て家庭からの多種多様なニーズへ対応することは現実的には難しい状況にある。こうした状況の中でも子育て家庭への支援策のメニューを一つでも多くふやしていくためには、行政のみで支援策を実施するという考えではなく、子育てタクシーのようにもっと民間企業などの力をかりることによって、行政では手の届きにくい部分に対しても、きめ細やかで、かつダイナミックな施策の展開が可能になるのではないか。子育て支援の分野での民間の力の活用に対する当局の考え</p>	2	2	2	6
3	<p>台七夕まつりの前日に当たる八月五日に開催されている仙台七夕花火祭について</p> <p>①当局はこの祭りに対しどのように認識されておられるのか</p> <p>②仙台市民に親しまれ、市外、県外からの誘客にもつなげる歴史ある仙台七夕花火祭を、安心・安全、クリーンに継続していくためには、仙台市としても費用面でしっかりと支援していくとともに、恒久的な打ち上げ場所の選定についても積極的な役割を果たしていくべき</p>	1	0	1	2
		5	4	5	14

【コメント】

1, 2⇒
他都市の調査に基づく具体的提案を伴った質問

第6日目 (2016.12.15)

7 渡辺博

NO.	質問	①事前・ 現場調査 (0~4点)	②他都市 との比較 (0~2点)	③改善案 (0~3点)	合計
1	<p>二〇二〇東京オリンピック、本市の取り組みについて</p> <p>①二〇二〇年東京オリンピックはまちづくりの絶好のよい機会。。二〇二〇年東京オリンピックをどう捉えておられるのか</p> <p>②今後、政府動向に関心を持ち、情報収集に当たるべきだと思われるがいかがか</p> <p>③東京都がオリンピックの開催都市ではあるが、その成功に向けて本市もその一翼を担うくらいの取り組みをしてもいいのではないのか</p> <p>④本市は現在どんな取り組みをしているのか</p> <p>⑤仙台市においても、先進自治体に倣い対策本部を設置して、今後戦略的な取り組みが必要と考えるが、いかがか</p> <p>⑥トップのやる気と本気度が重要。市長の考え</p>	1	0	1	2
2	<p>インバウンド関連</p> <p>①東京で開催された仙台のタベは、(文化観光局)新組織スタートに当たりどのような点を留意してお取り組みになったのか</p> <p>②ここ数年の参加者数の推移と参加者の種別あるいは分野別とその広がり、開催後の取り組み</p> <p>③今後に結びつけるための工夫も必要。参加者の意識調査は行っているのか。また、どのような要望が届いているのか</p> <p>④仙台市においても、観光客誘致の伸びしろ大いにありと意を強く持って取り組むべき時期である。いかがお考えか</p> <p>⑤仙台市の観光行政は、近年、多彩なメニューを用意して取り組みをしてきているところであると思うが、どのような点に意を用いてきたのか</p> <p>⑥マッキンゼーの調査結果についての認識。仙台市が置かれた現状をいかが評価しておられるのか、今後の取り組み</p> <p>⑦本市の知名度がどの程度なのか、把握されているのであればお聞かせください。知名度アップの対策は必要。いかがお考えか</p> <p>⑧仙台市に対するアクセスのメニューをできるだけ多く準備することも有効。現在一般的になってきている、インバウンドを意識したライブカメラなどの有効利用を図るなど、可能な限りの手だてを講じることが必要。見解</p>	1	0	1	2
3	<p>計量行政について</p> <p>①本市の消費者を守るという責務を果たすために、担当職員の知識と技術力の維持が必要。現状をどうお考えになっているのか</p> <p>②担当職員が市民対応をする際、必要な知識の取得のための研修、立入検査の際には必要な資格の取得も視野に入れた取り組みがあってもいいのではないのか</p> <p>③計量行政は市民社会の根幹を支える大事な職務。関係者挙げての理解と連携、協力が求められる。仙台市が主体となつての啓発活動も、今、さらに必要。お考えをお聞かせいただきたい</p>	1	0	1	2
4	<p>改正道路交通法に関連して</p> <p>①移動の足の確保を考えて免許証を返納することをちゅうちょされる高齢者及び家族の選択できるメニューを多く用意して、免許返納の促進を図ることは社会の要請。いかがお考えか</p> <p>②具体的に高齢者免許返納支援事業を仙台市挙げて始めてみてはいかがか</p>	1	2	2	5

5	<p>救急体制について</p> <p>①救急出場件数を見ると、平成十七年、三万九千九百九十三件であったものが、平成二十七年には四万八千六十五件に上っており、この十年間で一万件の増加が見られる。今後十年間の予測では、平成三十七年にはさらに伸びが見込まれ、七千件増加の五万五千件台が見込まれている。この傾向と現状に対して本市救急はどのような対応をしようとしているのか</p> <p>②病院収容時間の推移を見ると、全国平均よりも高かった平成十七年、全国平均並みまで改善することに成功した。しかし、平成二十四年からは再び全国平均を上回るようになった。その原因をいかが分析され対応されているのか</p> <p>③FASTとは、緊急走行の救急車を信号制御で優先的に交差点を通過させる現場急行支援システム。現在、東北大学病院、仙台市立病院を結ぶFASTが実施され、この評価を急ぎ効果が確認されれば、さらにオープン病院、国立医療センターなど、本市の救急業務に対応している病院を網羅することも考えるべき。いかがお考えか</p> <p>④先ほど橋本啓一議員の御質問にあった救急安心センター事業について、（宮城県の人口の半分を占める仙台市は、率先してこの事業の早期導入を図るべき）</p> <p>⑤。政令市及び近隣の幾つかの自治体が先行的に取り組めるといこの事例を生かしながら、宮城県知事に早期実現に向けて市長から市民の代表としてお話をさせていただく時期ではないか。見解（追加）</p>	2	1	2	5
		6	3	7	16

【コメント】	
<p>4①、5③④⇒ 調査に基づいて具体的提案を伴った質問</p> <p>1④、2①②③⇒ 事前に調べて質問する必要がある</p>	